第2節　市民アンケート

1．市民アンケートの対象

本調査は大企業の立地や企業集中によって企業やその企業従業員さらには定年退職者がその地域のかなり大きな部分を占めることになるが、企業や企業関連の住民と地域社会との共生のあり方について、その方向を見出そうとするものである。この調査では、その調査対象をトヨタ自動車とそれを取り巻く企業グループを中心としたことから、企業所在地である愛知県豊田市と刈谷市を市民アンケートの対象とした。

(1) 豊田市の概要

豊田市は愛知県中部に位置し、古くは「挙母（ころも）」といい、1937年トヨタ自動車の立地と共に急激に工業都市として発展を遂げ、1951年に市制を施行し、1959年には企業名の「豊田」に市名を変更した。石川県小松市（小松製作所）、東京都日野市（日野自動車工業）など、都市名とその都市の代表的企業名が一致するケースはかなりあるが、企業名に都市名を変更したケースは茨城県日立市（日立製作所）の例に見られる程度である。

豊田市はその後も元町、高岡、堤などのトヨタ自動車の工場建設と合併による市域拡大により人口は急激な増加を続け、2002年1月現在では約35万5千人に上り、愛知県内では名古屋市、豊橋市に次ぐ第3番目、工業製品出荷額では名古屋市を上回り県内第1の都市となっている。また面積は名古屋市に次ぐ県内2位の広さとなっており、工場地域の他、東部や北部の後背地域には広範囲に山間部を含んでいる。また、1998年には、政令指定都市に次ぐ位置付けである中核市の指定を受けている。

(2) 刈谷市の概要

刈谷市は豊田市の南西部に位置し、一部豊田市と境を接している。1920年代にトヨタ自動車の前身豊田自動織機や豊田紡織の工場を中心として発展し、豊田市に先んじて1950年に市制を施行した。戦後はトヨタ自動車の関連メーカー、デンソー、アイシン精機、トヨタ車体、豊田工機などの立地によって発展し、2002年1月現在では人口は約13万4千人で愛知県第9位、工業製品出荷額では県内第5位の都市である。また市の面積は豊田市の約6分の1と狭く、人口密度では豊田市を上回る。

両市はもともと農村部が多く、工業化の黎明期には労働力を近隣の農村地帯に求めたが、1965年頃からのモータリゼーションの高まりにより、全国各地から労働者を雇用するようになり、そこに勤める人たちの独身寮や社宅、住宅団地などが建設され、旧来の都市空間とは別の新しい都市空間が市内各地に形成されている。

2．アンケートの概要

(1) 属性

F 1．性

各質問の解説に移る前に、回答者の属性を確認しておきたい。

F 1　あなたの性別を教えてください。

	計	1．豊田市	2．刈谷市
1．男性	474(44.8%)	364(45.4%)	110(43.1%)
2．女性	557(52.7%)	416(51.9%)	141(55.3%)
NA	26(2.5%)	22(2.7%)	4(1.6%)
計	1,057(100.0%)	802(100.0%)	255(100.0%)

まず性別であるが、豊田市が男性45.4%、女性51.9%、刈谷市が男性43.1%、女性55.3%となり、いずれも女性からより多い回答を得て、両市トータルでは男性44.8%、女性52.7%となった。

対象とした18歳以上の人口を男女別で見ると、豊田市が男性約14万９千人(52.6%)、女性13万４千人（47.4%)、刈谷市が男性約５万６千人（52.4%)、女性約５万１千人（47.6%）とほぼ同じ男女比率で、両市とも数少ない男性優位の都市であるにもかかわらず、女性からの回答が多かった。これは、このアンケートのテーマである少子・高齢社会や、地域社会に対する女性の関心の高さをうかがわせるものといえよう。

F 2．年齢

F 2　あなたの満年齢を教えてください（2001年９月１日現在)。

	計	1．豊田市	2．刈谷市
平均（単位：才）	50.0	50.4	48.7
18－19歳	12(1.1%)	12(1.5%)	0(0.0%)
20－29歳	122(11.6%)	85(10.6%)	37(14.5%)
30－39歳	156(14.8%)	114(14.2%)	42(16.5%)
40－49歳	179(17.0%)	136(17.0%)	43(16.9%)
50－59歳	259(24.5%)	194(24.2%)	65(25.5%)
60－69歳	189(17.9%)	150(18.7%)	39(15.3%)
70－79歳	77(7.3%)	61(7.6%)	16(6.3%)
80－89歳	29(2.7%)	22(2.7%)	7(2.7%)
90歳以上	3(0.3%)	2(0.2%)	1(0.4%)
NA	30(2.8%)	25(3.1%)	5(2.0%)
計	1,056(100.0%)	801(100.0%)	255(100.0%)

年齢別に見ると、50代が最も多く24.5%、以下、それを取り巻くように60代が17.9%、40代

が17.0%、30代が14.8%と続く。

年齢別の推定回答率を年齢別人口統計との対比から推計すると下表のようになり、多くの企業が定年を迎える60歳の前後で高い回答率を示している。特に豊田市では60代の回答率は50%を超えていると推定される。その反面、20代、30代では回答率が低く、関心の低さを表している。

表２－２－１　推計回答率

	計	１．豊田市	２．刈谷市
平均年齢	50.0歳	50.4歳	48.7歳
20－29歳	14.5%	14.0%	16.0%
30－39歳	21.1%	22.0%	18.9%
40－49歳	31.3%	32.6%	27.9%
50－59歳	37.3%	37.5%	36.7%
60－69歳	46.0%	50.9%	33.6%
70－79歳	34.6%	39.6%	23.2%
80－89歳	32.6%	35.4%	26.0%
90歳以上	20.0%	18.8%	23.2%
計	27.8%	28.6%	25.5%

Ｆ３．健康状態

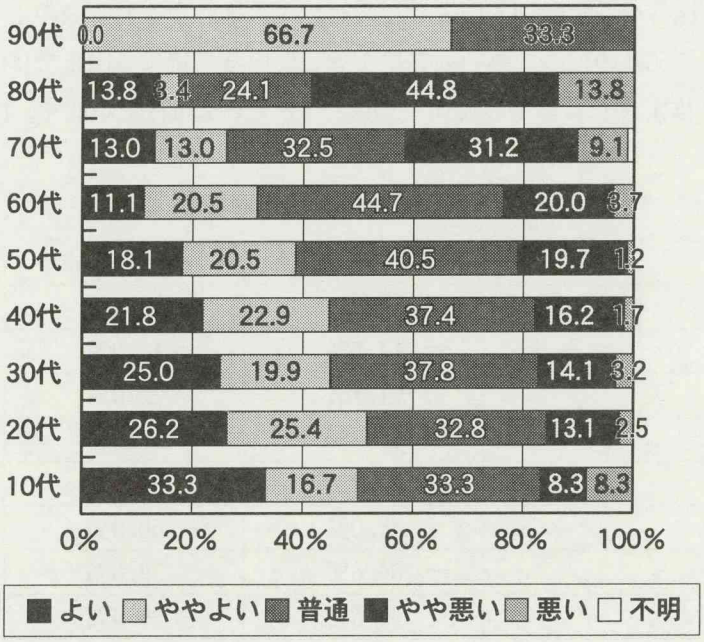
Ｆ３　あなたの現在のお体の具合はいかがですか。あてはまるもの一つに○をつけて下さい。

	計	１．豊田市	２．刈谷市
１．よい	196(18.5%)	141(17.6%)	55(21.6%)
２．まあよい	209(19.8%)	156(19.5%)	53(20.8%)
３．普通	393(37.2%)	299(37.3%)	94(36.9%)
４．やや悪い	197(18.6%)	158(19.7%)	39(15.3%)
５．悪い	35(3.3%)	27(3.4%)	8(3.1%)
ＮＡ	27(2.6%)	21(2.6%)	6(2.4%)
計	1,057(100.0%)	802(100.0%)	255(100.0%)

次に健康状態を尋ねた。「よい」と答えた人は18.5%、「まあよい」が19.8%、「普通」が37.2%、「やや悪い」は18.6%、「悪い」は3.3%となっており、「やや悪い」と「悪い」を合わせた健康状態のすぐれない人は21.9%で約4.5人に１人が健康でないと見ることができる。

年齢別に健康状態を見ると図２－２－１の通りで、40代までは比較的健康であるが、50代、60代で健康でない人が徐々に増加し、70代では約４割が健康でなく、80代では健康でない人が６割近くを占め、今後70歳以上の高齢者が増加した場合、健康でない人の数が急増する可能性を示唆している。

図２－２－１　年齢別健康状態



豊田市と刈谷市を比較すると表２－２－２のとおりであるが、20代から40代の若い世代で豊田市の方が健康でない人の割合が多く、50代以上の高年齢層でほとんど差がないのと対照的である。

また、男女別に比較すると、30代を除き、すべての年代で健康でない人の割合は女性の方が高い。

表２－２－２　健康状態がよくない人の割合（「悪い」＋「やや悪い」）

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	計
豊田市	17.7	21.1	19.8	20.6	23.2	40.9	59.1	100.0	23.1
刈谷市	10.8	7.1	11.7	21.5	25.7	37.6	57.1	100.0	18.4
男性	12.2	21.9	12.3	17.3	21.0	37.2	28.6	－	20.1
女性	17.3	14.2	21.7	23.9	27.7	44.1	86.7	100.0	24.6

Ｆ４．職業

職業で最も多いのは会社員で34.4％である。続いて専業主婦が18.0％、無職が15.3％、その他が10.1％、自営業が8.2％と続いている。公務員、農林業、専門職は２～３％台で少なく、学生は1.5％、教員は0.2％となっている。なお、「その他」と答えた人の記述内容から判断すると、「その他」のうちの７割以上をパートが占めると推定される。

F４　あなたは現在仕事をされていますか。あてはまるもの一つに○をつけてください。

	計	1．豊田市	2．刈谷市
1．会社員	363(34.4%)	274(34.3%)	89(34.9%)
2．公務員	34(3.2%)	23(2.9%)	11(4.3%)
3．自営業(家族従業員を含む)	86(8.2%)	58(7.3%)	28(11.0%)
4．専門職(医師、弁護士など)	26(2.5%)	19(2.4%)	7(2.7%)
5．農林業	28(2.7%)	24(3.0%)	4(1.6%)
6．教員	2(0.2%)	2(0.3%)	0(0.0%)
7．専業主婦	190(18.0%)	147(18.4%)	43(16.9%)
8．学生	16(1.5%)	14(1.8%)	2(0.8%)
9．無職	161(15.3%)	127(15.9%)	34(13.3%)
10．その他	107(10.1%)	81(10.1%)	26(10.2%)
ＮＡ	42(4.0%)	31(3.9%)	11(4.3%)
計	1,055(100.0%)	800(100.0%)	255(100.0%)

両市を比較すると、刈谷市でやや自営業が上回ること以外、豊田市と刈谷市の職業構成の相違はあまり見られず、両市が同じような産業構造、就業構造を持った都市であることを示している。ただ、就業率を下表の計算式（全体－（専業主婦＋学生＋無職＋無回答））で推計すると豊田市は60.0%、刈谷市は64.7%で、５%近く刈谷市の就業率が高い。

表２－２－３　年代別就業率の割合（全体－（専業主婦＋学生＋無職＋無回答））

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	計
男　性	85.4	100.0	95.9	99.1	53.5	39.5	50.0	－	78.7
女　性	49.4	53.3	65.1	58.5	27.6	20.6	0.0	0.0	48.8
計	61.5	72.4	77.7	76.8	43.2	31.2	24.1	0.0	61.1

年代別に職業を持っている人の割合を、専業主婦、学生、無職と答えた人、及び無回答の人を無職とみてこれらの合計を全体から差し引くことによって、職業を持っている人の割合を推計したのが表２－２－３である。

これによると、男性は30代から50代までほぼ100%に近い値を示し、60代でも就業率は５割を超え、70代、80代でも比較的高い値を示している。特に60歳以上の高齢者は農林業の比率が高く、農林業に従事している比率は60代が5.3%、70代が18.6%、80代が28.6%となっており、農林業就業者を除いて就業率を再計算すると、60代は50.9%、70代は25.7%、80代は30.0%となるが、農林業や自営業においては高齢でも働き続けることが可能であることを示している。

女性は20代から30代で約半数が職業を持っており、40代で65.1%とピークとなり、50代では58.5%とやや低下し、60代、70代の就業率は27.6%、20.6%と男性の約半分程度にとどまっており、80歳以上の就業者は皆無であった。学校を卒業して就職し、結婚、出産を機に退職し、子離れすると再就職するという女性の就業率にみられるいわゆるM字カーブは10歳刻みの統計

のため観察されなかったが、これは結婚年齢の遅れ、結婚、出産時の就業継続などにより、従来大きく下がっていたM字の底がかなり高まりをみせていることが一つの要因となっていると考えられる。

F５．役職

F５　（お勤め先のある方におうかがいします）現在のお勤め先での地位は、次のうちあてはまるもの一つに○をつけてください。

	計	１．豊田市	２．刈谷市
１．一般社員	191（ 32.3%）	141（ 32.0%）	50（ 33.1%）
２．班長、職長、係長、主任などの役職者	139（ 23.5%）	107（ 24.3%）	32（ 21.2%）
３．課長以上の役職者	57（ 9.6%）	40（ 9.1%）	17（ 11.3%）
４．アルバイト・パート	134（ 22.7%）	103（ 23.4%）	31（ 20.5%）
５．派遣社員	6（ 1.0%）	5（ 1.1%）	1（ 0.7%）
６．自営・家族従業員	48（ 8.1%）	30（ 6.8%）	18（ 11.9%）
７．その他	16（ 2.7%）	14（ 3.2%）	2（ 1.3%）
計	591（100.0%）	440（100.0%）	151（100.0%）

次に勤務先での役職を尋ねた。

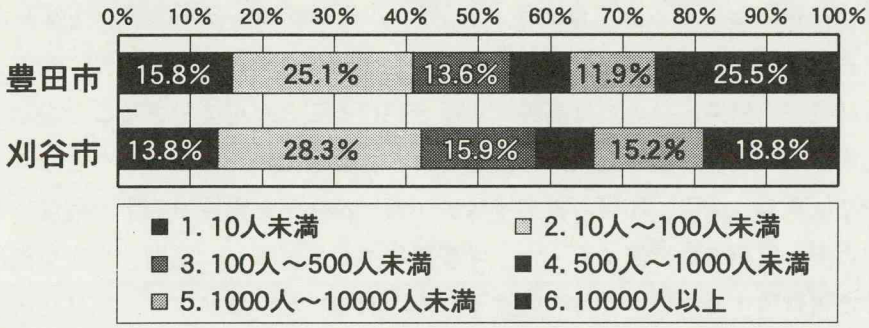
これによると、一般社員は32.3%、班長、職長、係長、主任などの役職者は23.5%、課長以上の管理職は9.6%となっており、役職のない一般社員と、役職のある社員の割合はほぼ同程度、つまり、社員の２人に１人は役職者と見ることができる。その他、アルバイト、パートは合わせて22.7%、派遣社員は1.0%、自営または家族従業員は8.1%となっている。

豊田市と刈谷市では、前問でも見たように自営業および家族従業員の割合が刈谷市で高いことを除くとそれほど大きな差は見られない。

F６．勤務先の企業規模

勤務先の企業規模を知る指標として勤務先の会社全体の従業員数を尋ねた。

図２－２－２　勤務先の従業員数（官公庁・その他を除く）



Ｆ６　（お勤め先のある方におうかがいします）お勤め先の従業員数は、会社全体で何人くらいですか。

	計	１．豊田市	２．刈谷市
１．10人未満	84(14.8%)	65(15.3%)	19(13.3%)
２．10人～100人未満	142(25.0%)	103(24.2%)	39(27.3%)
３．100人～500人未満	78(13.7%)	56(13.1%)	22(15.4%)
４．500人～1000人未満	44(7.7%)	33(7.7%)	11(7.7%)
５．1000～10000人未満	70(12.3%)	49(11.5%)	21(14.7%)
６．10000人以上	131(23.0%)	105(24.6%)	26(18.2%)
７．官公庁	16(2.8%)	12(2.8%)	4(2.8%)
８．その他	4(0.7%)	3(0.7%)	1(0.7%)
ＮＡ	569(100.0%)	426(100.0%)	143(100.0%)

従業員数に関するＦ６の質問に答えた人全体を100とすると豊田市で24.6%が、刈谷市でも18.2%が従業員数１万人以上の大企業に勤務していることになり、大企業従業員の比率が高いことがわかる。10人未満の小企業には14.8%が勤務し、100人未満の中小企業に勤務する人をあわせると39.8%となっており、両市とも小企業から大企業までがバランスよく構成されていることがわかるが、僅かな違いは豊田市が大企業と小企業とに勤務する人がやや多く、両極への分化が大きいといえる。なお、前ページ図２－２－２には官公庁、その他と答えた人を除いて、両市の就業構造を表示した。

Ｆ７．通勤時間

次に勤務先への片道の通勤時間を尋ねた。

Ｆ７　（お勤め先のある方におうかがいします）あなたの片道の通勤時間を教えてください。

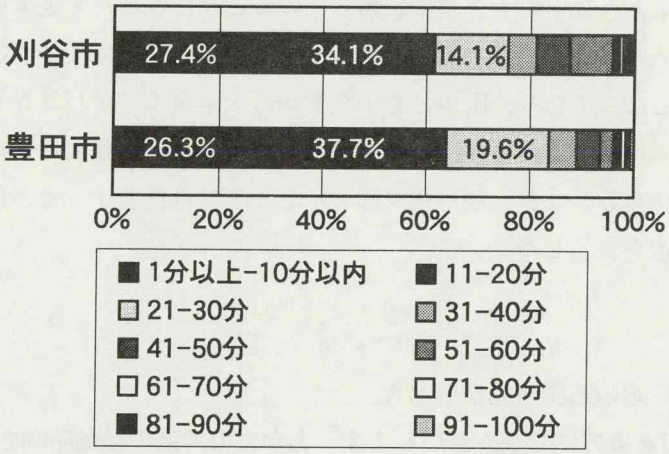
	計	１．豊田市	２．刈谷市
平均(単位：分)	24.9	24.5	25.9
１分以上－10分以内	146(26.6%)	109(26.3%)	37(27.4%)
11－20分	202(36.8%)	156(37.7%)	46(34.1%)
21－30分	100(18.2%)	81(19.6%)	19(14.1%)
31－40分	28(5.1%)	21(5.1%)	7(5.2%)
41－50分	20(3.6%)	13(3.1%)	7(5.2%)
51－60分	33(6.0%)	19(4.6%)	14(10.4%)
61－70分	5(0.9%)	4(1.0%)	1(0.7%)
71－80分	5(0.9%)	4(1.0%)	1(0.7%)
81－90分	7(1.3%)	4(1.0%)	3(2.2%)
91－100分	3(0.5%)	3(0.7%)	0(0.0%)
計	549(100.0%)	414(100.0%)	135(100.0%)

平均の通勤時間は24.9分で、豊田市が24.5分、刈谷市が25.9分となっており、国土交通省の2000年の調査による、首都圏68.2分、近畿圏64.9分、中京圏64.3分の数字と比べて半分以下の数字であり、豊田・刈谷両市において極めて職住が近接している状況がわかる。これは近畿・中京圏に比べ往復で80分、首都圏と比べると86分もの差があることになり、この差をその他の時間に配分できる時間的優位性は大きく、年間250日働くとした場合、年間で14～15日分の差になり職住近接のメリットはきわめて大きい。

図２－２－３に片道通勤時間を示したが、両市とも就業者の６割以上が20分以内で通勤できるところに職場があり、通勤時間が１時間を超える職場に通勤しているのは両市とも約４％弱を示すのみとなっている。

また男女別に見ると男性が28.5分、女性が17.9分となっており、職住近接の度合いは女性においてさらに顕著であることがわかる。

図２－２－３　片道通勤時間



Ｆ８．勤務時間

最近の週当たりの勤務時間を尋ねた。また、専業主婦には家事についている時間を尋ねた。これらのすべてを平均すると、35.5時間になる。ただし、この質問においては、週の労働時間を問う質問にもかかわらず一部の回答者に月間の勤務時間を答えたのではないかと思わせる回答があり、これらは無効（無回答）として処理した。

勤務時間を職業別に見ると図２－２－４のとおりである。

これによると、40時間台が最も多い。週休２日とした場合、日当たり２時間以上の残業に相当する週50時間以上の労働時間が最も多い職種は自営業である。

会社員と公務員はほぼ似通った勤務構造になっており、専門職は40時間未満の人が半分以上を占めており、フルタイムの労働者が他の職種に比べ少ないか、勤務時間そのものが少ないかなどの要因が考えられる。

農林業は20時間未満が半数以上を占めるが、50時間以上の人たちも多く片手間に農業を営む

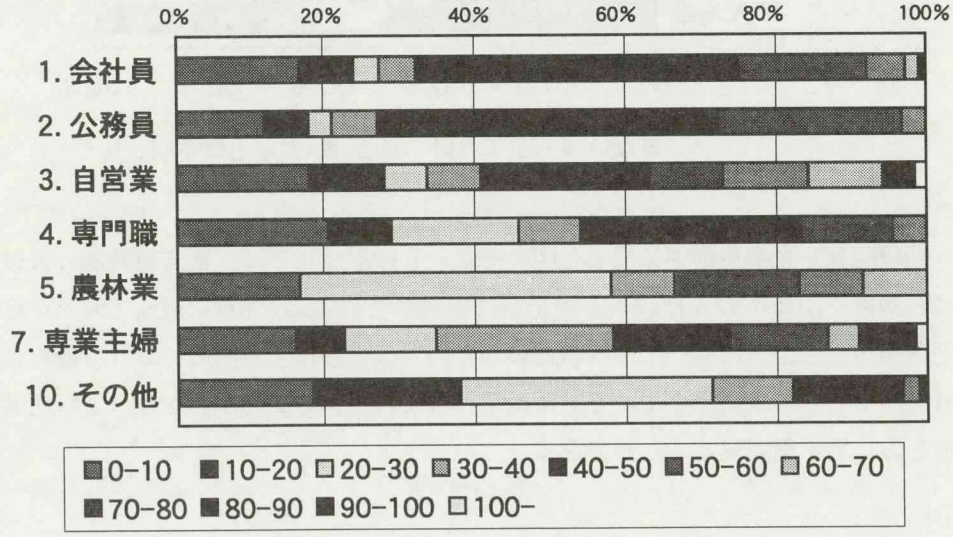
F 8　あなたの最近の勤務時間は平均して週何時間ぐらいでしょうか（残業を含む）。専業主婦の方は、１週間の平均家事時間をお答えください。

	計	1. 豊田市	2. 刈谷市
平均(単位：時間)	35.5	34.6	36.7
0－10時間未満	131(17.6%)	105(19.3%)	26(13.1%)
10－20時間	66(8.9%)	42(7.7%)	24(12.1%)
20－30時間	80(10.8%)	60(11.0%)	20(10.1%)
30－40時間	67(9.0%)	50(9.2%)	17(8.6%)
40－50時間	225(30.3%)	172(31.6%)	53(26.8%)
50－60時間	100(13.5%)	70(12.8%)	30(15.2%)
60－70時間	35(4.7%)	21(3.9%)	14(7.1%)
70－80時間	20(2.7%)	10(1.8%)	10(5.1%)
80－90時間	5(0.7%)	3(0.6%)	2(1.0%)
90－100時間	4(0.5%)	4(0.7%)	0(0.0%)
100時間以上	10(1.3%)	8(1.5%)	2(1.0%)
計	743(100.0%)	545(100.0%)	198(100.0%)

人と専業として営む人の差が大きいことを示している。専業主婦には家事時間を尋ねた。最も多いのは30時間台であるが全体にばらつきが大きく、家事と家事以外の時間をどのようにカウントするかを会社勤めのように峻別することが難しいため、このような結果が生じたものと考えられる。

「その他」の職種は、40時間未満が８割以上を占め、中でも20時間台が多く、パートなどがその他の職種として回答した結果と考えられる。

図２－２－４　職業別週当たり労働時間



Ｆ９．転職回数

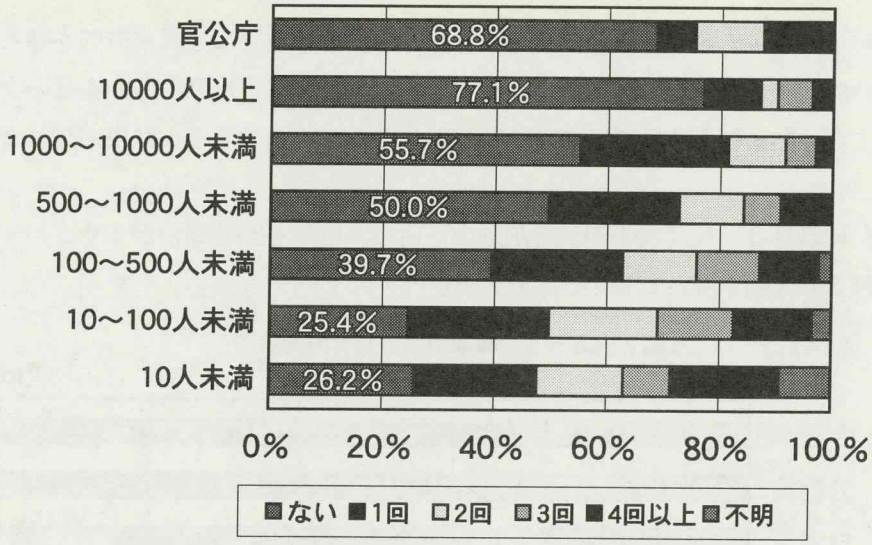
Ｆ９　（お勤め先のある方におうかがいします）転職された経験は何回ありますか。

	計	１．豊田市	２．刈谷市
１．ない	272(47.9%)	196(34.5%)	76(53.1%)
２．１回	117(20.6%)	81(14.3%)	36(25.2%)
３．２回	69(12.1%)	59(10.4%)	10(7.0%)
４．３回	50(8.8%)	38(6.7%)	12(8.4%)
５．4回以上	60(10.6%)	51(9.0%)	9(6.3%)
計	568(100.0%)	425(74.8%)	143(100.0%)

次に転職回数を尋ねた。

これによると、最初に就職して以後継続して現在の会社に勤務している人が47.9%とほぼ半数を占め、現在の高い雇用流動性から見て、この地域の定着性の高さや企業への帰属意識の高さをうかがい知ることができる。特に刈谷市では約８割までが転職経験がないか、もしくは１回の人で占められ、極めて高い数値ということができる。

図２－２－５　企業規模別転職回数



次に、転職回数を企業規模別に見ると図２－２－５に示すように、従業員数１万人以上の大企業では８割近くが新卒の入社以来その企業に定着していることがわかる。500人から10,000人の中堅企業から大企業においても転職経験のない人は半数以上を占めており、極めて安定した就業構造の中で自動車産業を中心とした産業が営まれていることがわかり、この地域の産業構造の強さの一端を垣間見ることができる。

F10. 最終学歴

最終学歴は高校卒業者が最も多く、47.0%と半数近くを占める。続いて中学校卒業者が21.3%、大学卒業者が13.0%、短大・高専卒業者が10.7%と続いている。

F10　あなたの最終学歴（中退を含む）を教えてください。

	計	1．豊田市	2．刈谷市
1．中学校（旧制小を含む）卒業	225(21.3%)	182(22.7%)	43(16.9%)
2．企業内訓練校修了	15(1.4%)	13(1.6%)	2(0.8%)
3．高等学校(旧制中を含む)・専門学校卒業	496(47.0%)	380(47.4%)	116(45.5%)
4．短期大学卒業・高等専門学校卒業	113(10.7%)	80(10.0%)	33(12.9%)
5．大学卒業	137(13.0%)	84(10.5%)	53(20.8%)
6．大学院修了	7(0.7%)	7(0.9%)	0(0.0%)
7．その他	4(0.4%)	3(0.4%)	1(0.4%)
NA	59(5.6%)	52(6.5%)	7(2.7%)
計	1,056(100.0%)	801(100.0%)	255(100.0%)

また、企業内訓練校の卒業者が1.4%いるのはこの地域における企業内技能養成校の存在がかなりのウエイトを占めていることを示すものといえる。

豊田市と刈谷市を比較すると特に大卒者の割合が豊田市の10.5%に対し、刈谷市がその倍にあたる20.8%を占めており、逆に中卒者は刈谷市の16.9%に対し、豊田市は22.7%となっており、総合的に見て刈谷市のほうが高学歴者が住んでいるといえる。これは、トヨタ自動車が本社と工場を豊田市内に集中させているのに対し、刈谷市にあるトヨタ系大企業が本社を刈谷市に置く一方、業容拡大により工場を周辺の安城市、西尾市、大府市などへも広げたことや、ＪＲ東海道線による名古屋方面への通勤者も比較的多いことによるものと思われる。

F11. 配偶者の有無

F11　あなたには配偶者がいらっしゃいますか。

	計	1．豊田市	2．刈谷市
1．いる	833(78.8%)	625(77.9%)	208(81.6%)
2．離別、または死別した	71(6.7%)	53(6.6%)	18(7.1%)
3．未婚である	108(10.2%)	85(10.6%)	23(9.0%)
NA	45(4.3%)	39(4.9%)	6(2.4%)
計	1,057(100.0%)	802(100.0%)	255(100.0%)

次に配偶者の有無を尋ねた。これによると配偶者がいる人は78.8%、離婚または配偶者の死亡によって配偶者がいない人が6.7%、未婚の人が10.2%となっている。

性別年齢別に見た配偶者の有無の状況を図２－２－６、図２－２－７に示したが、男性では

20代の既婚者は約３割しかなく晩婚化の現象を見ることができる。未婚者が30代でも２割近くが、40代に至っても１割以上いることを考えると豊田市、刈谷市の男女の絶対数のアンバランスによる未婚者の存在は看過できない。

女性では、20代の既婚率は６割強であり男性に比べて２倍以上になっている。しかし、30代の未婚率は１割あり、やはり、シングルの増加、晩婚化の状況をここでも見ることができる。

最も多く配偶者のいる年代は女性の場合40代で、女性が高齢者になるほど配偶者を失う度合いは男性に比べて極めて高い。これは男女の平均寿命の違いが大きいが、夫婦の多くが男性が年上であることもその要因の一つといえる。

男性において最も多く配偶者のいる年代は60代となっており、これは、40代、50代においても未婚者がかなりの割合でいることの証左でもある。

図２－２－６　配偶者の有無（男性）

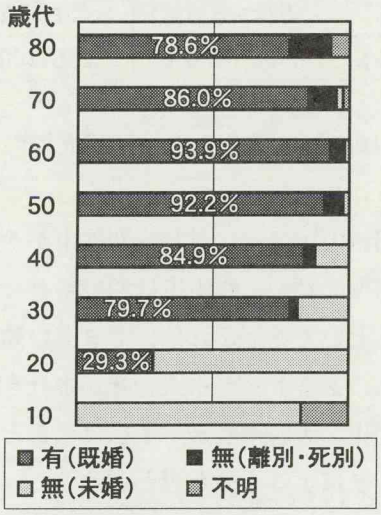
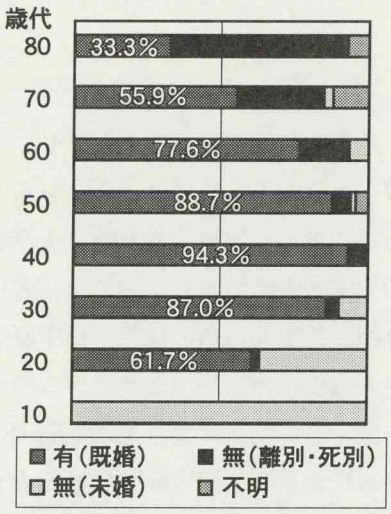


図２－２－７　配偶者の有無（女性）



Ｆ11－１．配偶者の職業

Ｆ11－１　（前問で１．と答えた方におうかがいします）配偶者の方は仕事を持っていらっしゃいますか。

	計	1. 豊田市	2. 刈谷市
１．フルタイム	309(37.2%)	237(38.0%)	72(34.8%)
２．パートタイム	115(13.8%)	93(14.9%)	22(10.6%)
３．自営・家族従業員	93(11.2%)	63(10.1%)	30(14.5%)
４．内職	14(1.7%)	9(1.4%)	5(2.4%)
５．無職	271(32.6%)	198(31.7%)	73(35.3%)
６．その他	29(3.5%)	24(3.8%)	5(2.4%)
計	831(100.0%)	624(3.8%)	207(100.0%)

配偶者が職業を持っている人は約７割で、そのうち半分強がフルタイム勤務者である。

F12. 親との同居

F12　あなたは、親と同居していますか。

	計	1. 豊田市	2. 刈谷市
1．実の親と同居している	149(14.1%)	109(13.6%)	40(15.7%)
2．義理の親と同居している	91(8.6%)	64(8.0%)	27(10.6%)
3．どちらとも同居していない	673(63.7%)	516(64.3%)	157(61.6%)
4．その他	70(6.6%)	53(6.6%)	17(6.7%)
NA	74(7.0%)	60(7.5%)	14(5.5%)
計	1,057(100.0%)	802(100.0%)	255(100.0%)

次に家族構成を尋ねた。まず、親と同居しているかどうかについては、実父母、義父母にかかわらず親と同居している人が22.7%、親と同居していない人は63.7%となっている。親と同居している割合は刈谷市のほうが高い。

F13. 子どもとの同居

F13　あなたは子どもさんと同居していますか。

	計	1. 豊田市	2. 刈谷市
1．既婚の子どもと同居している	196(18.6%)	150(18.7%)	46(18.0%)
2．未婚の子どもと同居している	480(45.5%)	360(44.9%)	120(47.1%)
3．同居していない	191(18.1%)	148(18.5%)	43(16.9%)
4．子どもはいない	159(15.1%)	117(14.6%)	42(16.5%)
NA	30(2.8%)	26(3.2%)	4(1.6%)
計	1,056(100.0%)	801(100.0%)	255(100.0%)

既婚の子どもと同居している人は18.6%、未婚の子どもと同居している人は45.5%、子どもと同居していない人が18.1%、子どもがいない人が15.1%となっている。

F14. 住居

F14　お宅のお住まいは次のどれにあてはまりますか。あてはまるもの一つに○をつけてください。

	計	1. 豊田市	2. 刈谷市
1．持ち家(一戸建て)	799(75.7%)	617(77.1%)	182(71.4%)
2．持ち家(分譲マンションなどの集合住宅)	56(5.3%)	40(5.0%)	16(6.3%)
3．借家(一戸建て)	7(0.7%)	5(0.6%)	2(0.8%)
4．賃貸の集合住宅(マンション・アパートなど)	140(13.3%)	98(12.3%)	42(16.5%)
5．社宅	28(2.7%)	20(2.5%)	8(3.1%)
6．その他	10(0.9%)	7(0.9%)	3(1.2%)
NA	15(1.4%)	13(1.6%)	2(0.8%)

一戸建ての持ち家に住んでいる人は75.7%、分譲マンションなどを含めると持ち家に住んでいる人の割合は、81.0%に上る。賃貸マンション・アパートなどに住んでいる人は13.3%、社宅に住んでいる人は2.7%となっており、大企業がある割には社宅居住者の割合はそれほど高いものにはなっていない。

一戸建ての持ち家は豊田市において特に高く77.1%となっており、刈谷市はそれよりも少なく、マンションやアパートに住んでいる人の割合が豊田市に比べて高い。

⑵ 居住地および生活環境

問1．居住地への定着性

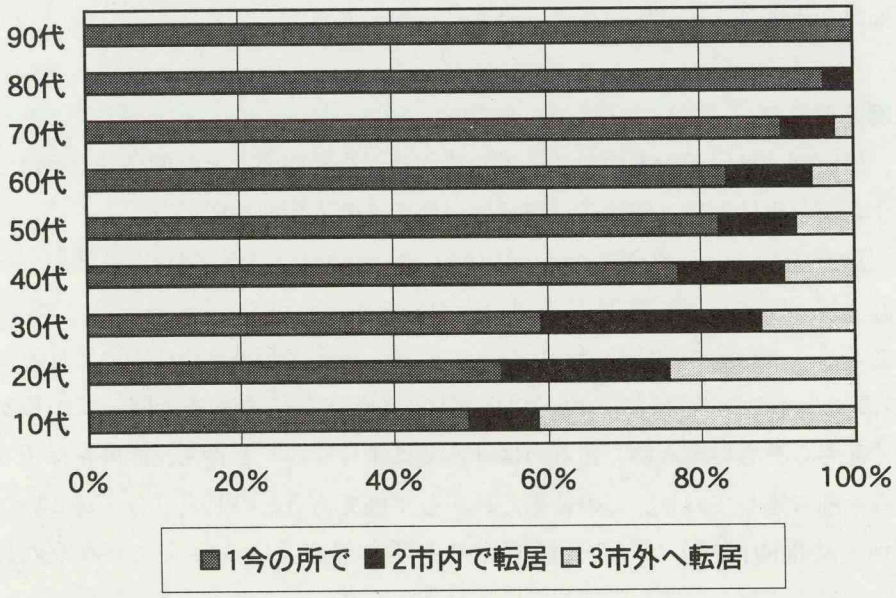
問1　あなたは現在住んでいるところに、これからも長く住みたいと思いますか。あてはまるもの一つに○をつけてください。

	計	1. 豊田市	2. 刈谷市
1．今のところに住み続けたい	786(74.4%)	592(73.9%)	194(76.1%)
2．同じ市内で別のところに住みたい	151(14.3%)	115(14.4%)	36(14.1%)
3．別の市町村に移りたい	108(10.2%)	85(10.6%)	23(9.0%)
NA	11(1.0%)	9(1.1%)	2(0.8%)
計	1,056(100.0%)	801(100.0%)	255(100.0%)

まず、現在の居住地に今後も住み続けたいかを聞いた。これによると、「今のところに住み続けたい」が74.4%で4人のうち3人が現在の居住地に住み続けたいと考えている。また、市内の別のところへの転居を希望している人は14.3%おり、市外への転居を希望している人は10.2%にとどまっている。豊田市、刈谷市ともに同様の傾向であるが、刈谷市の方がより定着性が高く、「今のところに住み続けたい」と考える人は76.1%に上る。

これを年齢別に見ると、図2－2－8に見るように年齢が上がるにつれて定着性が高まることがはっきりとわかる。10代では独立して他市へ移転したい人が4割を超えるのに対し、20代、30代では市内での転居を希望する人が多くなり、40代になると持ち家をした人が多くなるためか今の場所に住み続けたいと考える人が急激に増加し、8割に近づく。60代まではほぼ同じ傾向が続くが、70代以上になると転居を希望する人は1割に満たなくなり、定着性がますます高まる。

図２－２－８　年齢別定着性（転居希望）



問２．居住地の用途区分

問２　あなたのお住まいはどのようなところにありますか。あてはまるもの一つに○をつけてください。

	計	1. 豊田市	2. 刈谷市
1．一般の住宅地	461(43.9%)	310(38.8%)	151(60.2%)
2．団地開発でできた住宅地	172(16.4%)	158(19.8%)	14(5.6%)
3．市街地・商業地	63(6.0%)	42(5.3%)	21(8.4%)
4．住宅・工場混在地域	70(6.7%)	54(6.8%)	16(6.4%)
5．田畑の多いところ	241(23.0%)	194(24.3%)	47(18.7%)
6．山の多いところ	36(3.4%)	36(4.5%)	23(9.0%)
ＮＡ	6(0.6%)	4(0.5%)	2(0.8%)
計	1,049(100.0%)	798(100.0%)	251(100.0%)

次に、今住んでいる所がどのような環境にあるか、用途地域の別を尋ねた。最も多いのが「一般の住宅地」で43.9%、続いて「田畑の多いところ」が23.0%、「団地開発でできた住宅地」が16.4%となり、「住宅・工場混在地域」、「市街地・商業地域」はともに６%台と少なく、住宅地とそれ以外の土地が比較的分離されている土地柄と見ることができる。

ただ、両市を比較するとかなり大きな差が見て取れる。すなわち、豊田市は住宅団地に住んでいる人が19.8%と刈谷市の3.5倍いるのに比べ、一般の住宅地に住んでいる人は刈谷市の60.2%に比べ３分の２で、刈谷市では一般の住宅地が多いのに比べ、豊田市では新しい住民と従来から住んでいる住民とが分かれて住んでいる様子がうかがえる。また、豊田市では田園地

帯や山間部に住んでいる人も刈谷市より多く、豊田市の市域が市街地、住宅地、工業地帯以外にも、農村地帯や山間部を広範囲に含んでいることがわかる。

問３．生活環境満足度

次に病院、保育園、公民館などの公共施設や買い物、交通機関などの便利さ、近所づきあいなどのしやすさなど生活環境に関する14項目についてその満足度を聞いた。

⑴の病院・診療所などの医療施設については52.8％が満足と答えており（「満足」と「まあ満足」の合計、以下同じ）、両市の医療施設の充実ぶりがうかがえる。

次に⑵の老人ホーム・老人健康施設および⑶の児童・障害者福祉施設については不満と答えた人が（「不満」と「やや不満」の合計、以下同じ）満足と答えた人を上回っているが、２つの質問とも「どちらともいえない」あるいは「あてはまらない」と答え、態度を保留している人が５割から６割に達しており、この結果だけから不備であるとの断定はむずかしい。

⑷の保育所・幼稚園、および⑸の公民館等の生涯学習施設についてはそれぞれ46.7％、46.4％が満足と答えており、概ね充実していると考えられる。

⑹の公園・広場については満足と答えた人が41.2％であるが、不満と答えた人も25.6％おり、地域によって利便性に格差があると推定される。

次に⑺の治安のよさは48.1％が満足と答えており、⑻の緑などの自然環境のよさは58.8％が満足しており、14項目の中で最も高い値を示している。

しかしながら、次の⑼の道路整備のよさ（交通渋滞のなさ）、および、⑽の電車・バス等の便利さに関しては、満足と答えた人はそれぞれ29.8％、28.9％にとどまっている。逆に不満と答えた人はそれぞれ40.4％、53.0％となっており、特に電車・バスなど公共交通機関については半数以上が不満を訴えている。これは市内交通を自動車に頼らざるを得ない両市の交通事情を物語るとともに、中規模都市における公共交通の限界性を示すものといえる。

⑾の日常の買い物のしやすさについては、57.4％が満足しており、商業施設は充実していると見ることができる。

⑿の自治会活動については、満足と答えた人は24.1％と少ない。ただ、不満と答えた人も14.0％と少なく、どちらともいえないと答えた人が55.1％と他の質問より20～30％も多い。ただ、⒀の近所とのつきあいについては48.7％が満足しており、近隣との人間関係は比較的良好と見られ、自治会活動の満足度の数字の低さは、単に自治会への関心や関わり方の低さを示すものと推定される。

最後に⒁の街並みのよさを満足と答えた人は28.8％、不満と答えた人は25.1％と分かれており、職住の近接した両市の色々な側面を感じさせるものとして興味深い。

表２－２－４、表２－２－５に満足度を豊田市と刈谷市に分けて、前の質問で聞いた住居の用途区域別に平均点で表示した。満足と答えた人を１点、不満と答えた人を５点としたため、

問３　あなたは、お住まいの周囲の生活環境にどの程度満足されていますか。(1)から(14)のそれぞれの項目について、あてはまるもの一つに○をつけてください。

	1．満足	2．まあ満足	3．どちらともいえない	4．やや不満	5．不満	6．あてはまらない	NA	計
(1)病院・診療所の利用のしやすさ	13.3%	39.5%	17.0%	15.3%	10.6%		4.4%	100.0%
(2)老人ホームや老人保健施設の利用のしやすさ	3.9%	10.7%	31.0%	8.4%	11.9%	28.1%	7.2%	100.0%
(3)児童・障害者福祉施設の利用のしやすさ	2.9%	10.8%	32.7%	11.4%	9.7%	24.5%	8.1%	100.0%
(4)保育所・幼稚園の利用のしやすさ	15.6%	31.1%	18.0%	6.6%	3.7%	18.1%	6.8%	100.0%
(5)公民館等生涯学習施設の利用のしやすさ	12.0%	34.4%	30.3%	11.9%	4.7%		6.7%	100.0%
(6)公園・広場の利用のしやすさ	10.8%	30.4%	26.1%	15.0%	11.6%		6.2%	100.0%
(7)地域の治安のよさ	8.7%	39.4%	26.8%	12.8%	6.4%		5.9%	100.0%
(8)緑などの自然環境のよさ	17.9%	40.9%	18.5%	11.7%	5.8%		5.2%	100.0%
(9)道路整備のよさ(交通渋滞のなさ)	6.4%	23.4%	24.0%	25.8%	14.6%		5.9%	100.0%
(10)電車・バスの便利さ	8.3%	20.6%	12.8%	21.8%	31.2%		5.3%	100.0%
(11)日常の買い物のしやすさ	16.3%	41.1%	15.2%	13.9%	8.1%		5.4%	100.0%
(12)自治会活動のしやすさ	3.8%	20.3%	55.1%	8.4%	5.6%		6.8%	100.0%
(13)近所とのつきあいやすさ	10.3%	38.4%	35.7%	6.7%	4.2%		4.7%	100.0%
(14)街並みのよさ	5.4%	23.4%	39.9%	16.3%	8.8%		6.2%	100.0%

表２－２－４　豊田市の生活環境満足度（満足：１…不満５）

問２	一般住宅地	住宅団地	市街地	住宅・工場混在	田園地帯	山間部	豊田市計
問３(1)医療	2.36	3.10	2.34	3.04	3.19	3.85	2.82
問３(2)老人福祉	3.07	3.22	3.21	3.13	3.42	3.79	3.23
問３(3)児童福祉	3.02	3.24	3.18	3.09	3.39	3.94	3.21
問３(4)保育	2.27	2.52	2.72	2.72	2.53	3.36	2.49
問３(5)生涯学習	2.42	2.63	2.93	3.04	2.65	3.18	2.62
問３(6)公園	2.78	2.75	2.83	3.26	3.10	3.69	2.93
問３(7)治安	2.50	2.86	3.18	2.94	2.55	2.36	2.65
問３(8)自然	2.41	2.31	3.35	3.15	2.07	1.46	2.36
問３(9)道路	3.18	3.09	3.48	3.72	3.24	3.12	3.22
問３(10)交通機関	3.31	3.63	2.97	3.94	3.86	4.47	3.59
問３(11)買い物	2.29	2.72	2.30	2.63	3.07	3.67	2.65
問３(12)自治会	2.85	2.86	3.00	3.17	2.94	3.22	2.92
問３(13)近所づきあい	2.47	2.55	2.83	2.66	2.51	2.39	2.52
問３(14)街並み	2.86	2.76	3.13	3.58	3.12	2.94	2.97

表２－２－５　刈谷市の生活環境満足度（満足：１…不満５）

問２	一般住宅地	住宅団地	市街地	住宅・工場混在	田園地帯	刈谷市計
問３(1)医療	2.29	2.25	1.80	2.12	2.63	2.30
問３(2)老人福祉	2.85	3.09	2.90	3.06	2.98	2.91
問３(3)児童福祉	2.90	2.91	3.00	3.31	3.10	2.98
問３(4)保育	2.41	2.50	2.20	2.81	2.60	2.46
問３(5)生涯学習	2.49	2.64	2.43	3.00	2.67	2.56
問３(6)公園	2.53	2.64	2.55	3.18	2.69	2.62
問３(7)治安	2.70	2.67	2.70	2.88	2.69	2.71
問３(8)自然	2.56	3.00	3.20	3.53	2.33	2.66
問３(9)道路	2.93	3.64	2.85	3.65	3.40	3.11
問３(10)交通機関	3.14	3.45	2.40	2.88	3.85	3.22
問３(11)買い物	2.15	2.27	1.70	2.00	2.69	2.23
問３(12)自治会	2.81	3.00	2.80	3.31	2.96	2.88
問３(13)近所づきあい	2.49	2.36	2.60	3.24	2.79	2.60
問３(14)街並み	2.98	3.09	3.25	3.59	3.11	3.08

（網目の薄い部分＝相対的に満足度の高い地域、濃い部分＝相対的に満足度の低い地域）

点数が低いほど満足度が高い。また、老人ホーム、児童・障害者福祉施設、保育所・幼稚園について聞いた(2)〜(4)の3問については、直接関係のない人もいることから、5段階評価のほかに「あてはまらない」という選択肢を用意したが、これを選んだ人は「どちらともいえない」を選んだ人と同じ3点として平均点を算出した。

これを見ると両市ともよく似た傾向を示しており、公共の施設には比較的満足しているが、公共交通機関や道路の混雑についての不満が多い。

まず、豊田市では公共交通機関に対する不満が3.59と市街地を除いて高い。また、道路混雑についても3.22で特に住宅・工場混在地域での不満が高く、通勤時の交通渋滞等の問題によるものと思われる。老人福祉施設、児童福祉施設についても評価は高くない。最も満足度の高かったのは自然環境であり2.36の値を示した。近所づきあい、買い物、治安についても高い値を示している。また、保育施設、生涯教育施設についても満足度が高い。また、山間部と一般住宅地との間には生活環境の便利さにおいて大差があり、二面性を持った都市ということができよう。

次に刈谷市について見てみよう。刈谷市においても公共交通機関に対する不満は強いが豊田市ほどではない。平均点が3点を超えるのは公共交通機関と道路混雑、街並みだけであとの項目はすべて3点以下であり、満足とした人が不満とした人を上回った。特に、買い物の2.23、医療機関の2.30はきわめて高く、都市としての便益性は豊田市を上回っていると考えられる。また、豊田市に比べ市域が狭いためか市内での格差は少なく住宅・工場混在地域が各種施設への便益性に若干劣る程度である。

問4．豊田市・刈谷市に対する印象

次に自分の住んでいる豊田市あるいは刈谷市に対してどのようなイメージを持っているかを聞いた。

まず、(1)若々しく活気があるかについては、豊田市で「そう思う」が16.3%、「そう思わない」が29.8%、刈谷市で「そう思う」が12.9%、「そう思わない」が30.2%といずれも否定する意見が上回っており高度成長期に見られた両市に対する若者の町というイメージは既に昔日の感がある。

次に(2)市民の連帯感が感じられるか否かについては、豊田市で「そう思う」が10.1%、「そう思わない」が33.3%、刈谷市で「そう思う」が10.2%、「そう思わない」が24.3%と、やはり否定的な意見が上回っており、豊田市で、よりその傾向が強い。

次に(3)都会的であるか否かについては、豊田市で「そう思う」が2.4%、「そう思わない」が69.4%、刈谷市で「そう思う」が4.3%、「そう思わない」が58.8%と、ほぼ完全に否定された形となった。次の(4)文化的であるか否かについても豊田市で「そう思う」が8.4%、「そう思わない」が39.2%、刈谷市で「そう思う」が8.6%、「そう思わない」が34.1%と、同じように否

問４　あなたは豊田市（刈谷市）についてどのような感じを持っていますか。⑴～⑹のそれぞれの項目について、１～３の中からあてはまるものに○をつけてください。

		１．そう思う	２．どちらともいえない	３．そうは思わない	ＮＡ	計
⑴　若々しくて活気がある	豊田	16.3%	47.9%	29.8%	6.0%	100.0%
	刈谷	12.9%	50.6%	30.2%	5.9%	100.0%
⑵　市民の連帯感が感じられる	豊田	10.1%	50.5%	33.3%	6.1%	100.0%
	刈谷	10.2%	60.4%	24.3%	5.1%	100.0%
⑶　都会的な感じがする	豊田	2.4%	21.8%	69.4%	6.4%	100.0%
	刈谷	4.3%	31.4%	58.8%	5.5%	100.0%
⑷　文化的である	豊田	8.4%	45.4%	39.2%	7.1%	100.0%
	刈谷	8.6%	50.6%	34.1%	6.7%	100.0%
⑸　自然が豊かで美しい	豊田	39.3%	40.0%	14.4%	6.4%	100.0%
	刈谷	12.2%	53.3%	29.0%	5.5%	100.0%
⑹「車のまち」と呼ばれるにふさわしい	豊田	28.3%	37.0%	28.7%	6.0%	100.0%
⑹「工業のまち」と呼ばれるにふさわしい	刈谷	40.4%	43.9%	12.2%	3.5%	100.0%

定的な意見が大勢を占めている。

次の⑸自然が豊かで美しいか否かについては、刈谷市では「そう思う」が12.2%、「そう思わない」が29.0%と否定的な意見が多いが、豊田市で「そう思う」が39.3%、「そう思わない」が14.4%と肯定的意見が大幅に上回っており、山野が近く四季の移り変わりに身近に触れることができる豊田市の魅力の一端をうかがわせている。

最後の質問⑹については豊田市と刈谷市の設問を変えた。豊田市では「車のまち」と呼ばれるにふさわしいかについて聞いたが、「そう思う」が28.3%、「そう思わない」が28.7%と賛否が全く分かれる結果となった。これは、市民が豊田市を自動車産業の町と認めながらも、「車のまち」と呼ぶにふさわしいかと正面切って聞かれると、渋滞はしているし、「車のまち」にふさわしい何らかの新しい機軸が打ち出されているわけでもないと迷った結果の回答と見ることができる。

刈谷市については「工業のまち」と呼ぶにふさわしいか否かについて聞いた。その結果は「そう思う」が40.4%、「そう思わない」が12.2%と圧倒的に支持されている。

(3) 社会保障制度

問５－Ａ．公的年金のあり方

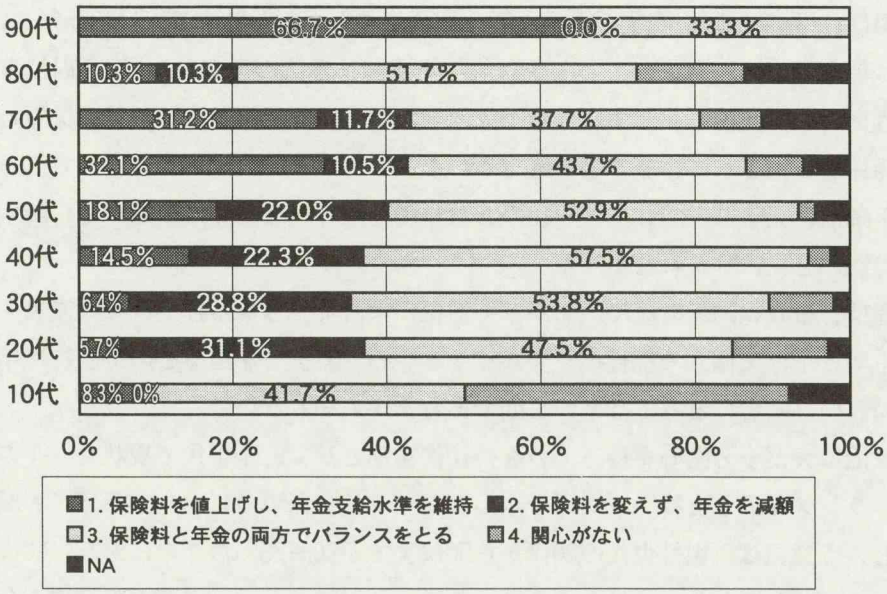
問５－Ａ　これからの公的年金のありかたについておうかがいします。あなたのお考えに最も近いもの一つに○をつけてください。

	計	1. 豊田市	2. 刈谷市
1．保険料を値上げし、年金支給水準を維持	188(17.8%)	143(17.9%)	45(17.6%)
2．保険料を変えず、年金を減額	220(20.9%)	159(19.9%)	61(23.9%)
3．保険料と年金の両方でバランスをとる	523(49.6%)	396(49.6%)	127(49.8%)
4．関心がない	69(6.5%)	61(7.6%)	8(3.1%)
ＮＡ	54(5.1%)	40(5.0%)	14(5.5%)
計	1,054(100.0%)	799(100.0%)	255(100.0%)

これからの公的年金のあり方について聞いた。これによると、「保険料を値上げし、現在の年金水準を維持していく」が17.8%、「現在の保険料を変えずに、年金受給額を減額する」が20.9%、「保険料の微増と年金の微減の両方でバランスをとる」が49.6%となっており、折衷案を支持する人が最も多い。

これを年齢別に見ると図２－２－９のようになる。サンプルの少ない10代、90代を除き、ほぼ全年代で折衷案が最も多く支持されている。

図２－２－９　公的年金のあり方



保険料を下げたいか、年金水準を維持したいかの二者で比較すると、年金保険料を支払っている世代の20代から50代までは保険料を維持して年金受給額を減額することを支持し、年金を受給できる60代になると保険料を上げて年金受給額を維持することを支持している。これは当然の結果としても、60代から80代までの受給世代のうち、おのおの10%強は年金受給額の減額もやむなしとしていることは注目に値する。

また、「関心がない」と答えた人や無回答の人の比率は40代、50代で10%を切り、この世代の老後の経済的基盤への関心の高さをうかがわせる結果となった。

問5－B．社会保障と税負担

問5－B　地域福祉や社会保障と税負担との関係について、あなたの考えに最も近いもの一つに○をつけてください。

	計	1. 豊田市	2. 刈谷市
1．社会福祉のための増税を容認	185(17.5%)	144(18.0%)	41(16.1%)
2．社会福祉と税負担は現在のバランスで	543(51.4%)	403(50.2%)	140(54.9%)
3．社会福祉水準を落としてもよいので減税を	245(23.2%)	185(23.1%)	60(23.5%)
4．関心がない	46(4.4%)	42(5.2%)	4(1.6%)
NA	38(3.6%)	28(3.5%)	10(3.9%)
計	1,057(100.0%)	802(100.0%)	255(100.0%)

次に、地域福祉や社会保障と個人の税負担との関係をどのように考えているかを尋ねた。

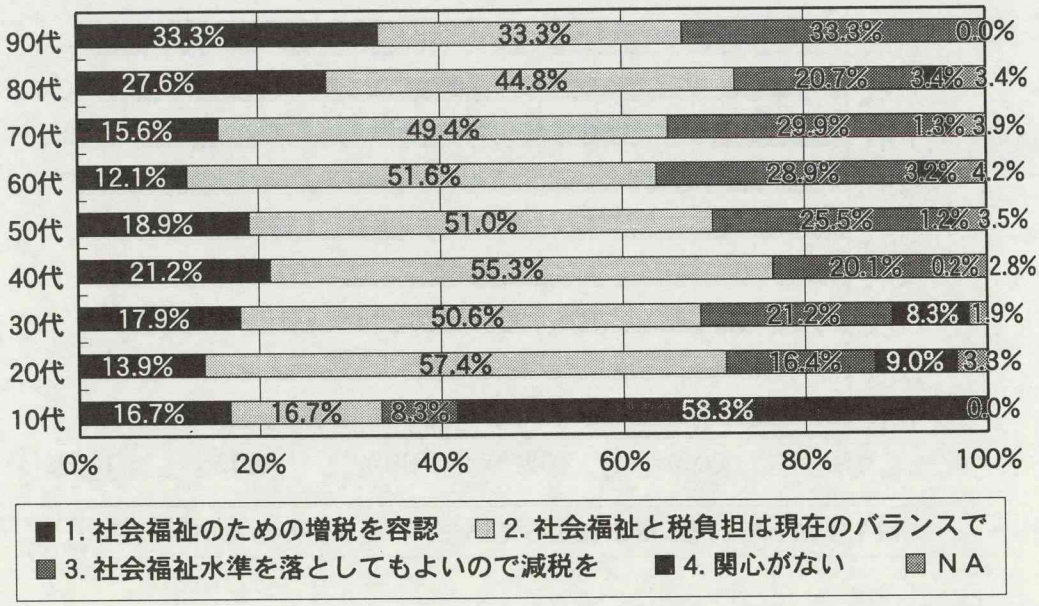
その結果は、「社会保障の充実のためなら、増税もやむなし」とする人は17.5%、「社会福祉と税負担は現在程度のバランスで」と現状維持を支持する人が51.4%、「社会福祉水準を多少落としても良いので減税を」とする人が23.2%となり、概ね現状レベルの社会保障と税負担のバランス関係が支持されていることが確認された。

これを年齢別に見ると、図2－2－10のとおりで、問5－Aで見た公的年金に関する質問ほどには年齢別の意見は分かれなかった。

この質問は、厳しい国家財政にかんがみて増税によってさらなる社会保障の充実を求めるか、社会保障を切り下げて個人の税負担を少なくするかの二者択一を迫るもので、特に年金収入への依存度の高い高齢者にとっては辛い質問であったかも知れない。

結果は政治にまだ十分関心を持っていない10代を別として、全世代で現状レベルの税負担と社会保障バランスが最も支持された。しかしながら、社会保障のレベルを下げても減税したほうがよいという意見は、現役世代の30代から50代までが20～25%台なのに対し、60代から70代では30%近くに達しており、意外な感を拭い去ることができない。消費税の増税を今後の高齢

図２－２－10　社会保障と税負担



社会における社会福祉財源にしようという動きがあり、これを懸念したものとも受け取れるが、それよりも、社会保障レベルを下げてもよいという選択が３割近くに上っていることは、明らかに世代間の見直しが必要であることの警鐘であると見てよいのではないだろうか。

(4)　介護

問６．介護保険

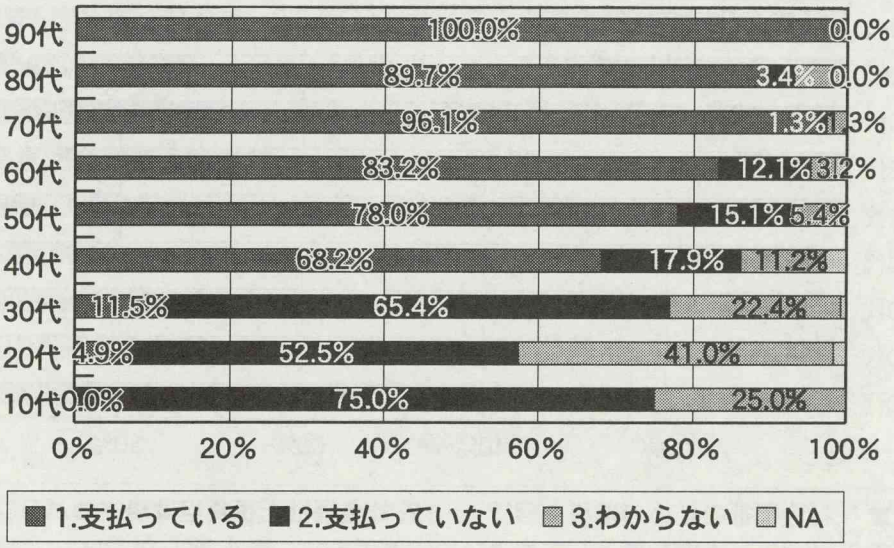
問６　あなたは、公的介護保険の保険料を支払っていますか。あてはまるもの一つに○をつけてください。

	計	1. 豊田市	2. 刈谷市
１．支払っている	631(59.7%)	490(61.1%)	141(55.3%)
２．支払っていない	275(26.0%)	195(24.3%)	80(31.4%)
３．わからない	132(12.5%)	102(12.7%)	30(11.8%)
ＮＡ	19(1.8%)	15(1.9%)	4(1.6%)
計	1,057(100.0%)	802(100.0%)	255(100.0%)

次に介護保険料を支払っているかどうかを聞いた。「支払っている」と答えた人が59.7%、「支払っていない」と答えた人が26.0%であるが、40歳以上に保険料の支払義務が課せられていることから、この数字自体はさほど意味を持たない。ただ、「支払っているかどうかわからない」と答えた人が無回答を含め14.3%あり、関心の低い層ということができる。

年齢別に見ると、その答えが正しいかどうか、およその判定がつく。図２－２－11によると、

図２－２－11　介護保険料の支払い



20代の正答率は52.5%、30代の正答率は65.4%と決して高いとはいえない。また、40代以上は一部の例外者を除くと納税しているはずであり、そのように仮定した場合、40代の正答率は７割程度、50代、60代でも８割程度と必ずしも高い数字とは言えず、介護保険導入時には大きな話題になった割には介護保険制度が十分浸透していないことがうかがわれる。

問７．家族の介護経験

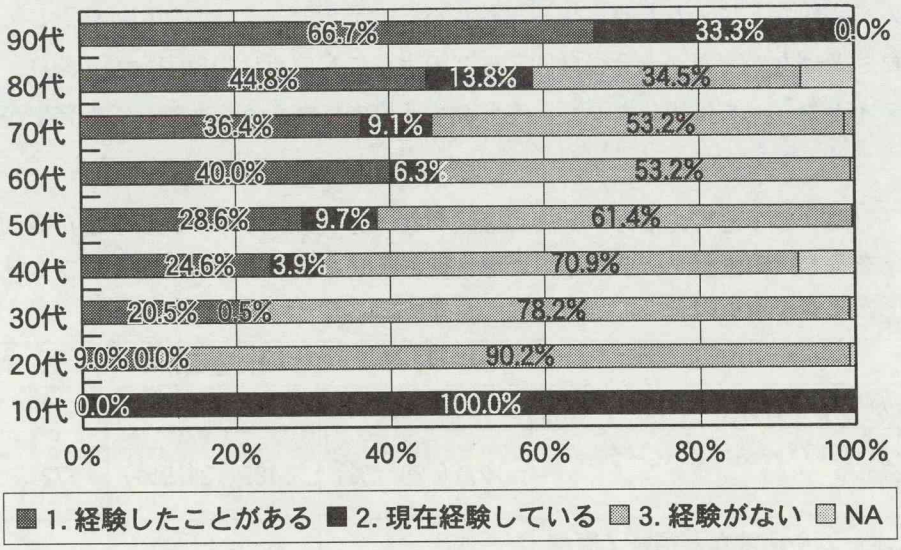
問７　あなたは、家族の介護を経験したことがありますか（現在経験していますか）。

	計	1. 豊田市	2. 刈谷市
１．経験したことがある	285(27.1%)	216(27.1%)	69(27.2%)
２．現在経験している	56(　5.3%)	40(　5.0%)	16(　6.3%)
３．経験がない	703(66.8%)	537(67.3%)	166(65.4%)
ＮＡ	8(　0.8%)	5(　0.6%)	3(　1.2%)
計	1,052(100.0%)	798(100.0%)	254(100.0%)

次に過去、現在を含めて家族を介護したことがあるかどうかを聞いた。これによると、過去に介護の経験がある人が27.1%で、現在介護をしている5.3%を含め、約３分の１が介護を経験していることになる。

これを年齢別に見ると、図２－２－12に示したように、年齢を増すごとに家族の介護経験のある人が増加しており、20代では10%未満であるのに対し、30代では20%を超え、40代で３割、50代で４割となっている。60代、70代では５割近くが、80代では６割近くが家族の介護を経験

図２－２－12　介護経験の有無



し、そのうち７人に１人は今現在も自らが家族を介護しており、高齢者は介護されることが多いばかりでなく、自らが家族を介護する立場にも回っている実態が明らかになった。

問７－１、問７－２、問８、問９．介護の方法

問７－１では問７で介護経験ありと答えた人に、どのような方法で介護したかを聞いた。また、介護経験のない人には問７－２で親の介護が必要になった場合どうするかを、問８では全員に配偶者の介護が必要になった場合の介護方法を、最後に問９で自分自身が介護が必要になった場合どのようにして欲しいかを聞いた。

問７－１　（１または２と答えた方におうかがいします）どのように介護なさいましたか（介護なさっていますか）。あてはまるもの一つに○をつけてください。

	計	1. 豊田市	2. 刈谷市
1．家族が自宅で介護	185(17.6%)	145(18.1%)	40(15.7%)
2．ホームヘルパー、デイセンターを併用	54(5.1%)	34(4.3%)	20(7.9%)
3．老人ホームや病院など福祉・医療施設	92(8.7%)	69(8.6%)	23(9.1%)
ＮＡ	722(68.6%)	551(69.0%)	171(67.3%)
計	1,053(100.0%)	799(100.0%)	254(100.0%)

これによると、問７－１に見るように、過去には家族が自宅で介護するケースが最も多く、老人ホームや病院などに入れたり、ホームヘルパー・デイセンターの利用は合計しても自宅介護の割合にも及ばなかったが、今後は問７－２のように家族だけの自宅介護が減り、ホームヘルパー・デイセンターを併用しながら自宅介護する方向に向かうことが、この結果から予測される。

問７－２　（問７で３と答えた方ー介護の経験のない方ーにおうかがいします）親（義理の親を含む）の介護が必要になった場合に、あなたはどのようにするおつもりですか。あてはまるもの一つに○をつけてください。

	計	1. 豊田市	2. 刈谷市
1．家族が自宅で介護	92（ 8.7%）	67（ 8.4%）	25（ 9.8%）
2．ホームヘルパー、デイセンターを併用	271（ 25.7%）	199（ 24.9%）	72（ 28.2%）
3．老人ホームや病院など福祉・医療施設	135（ 12.8%）	106（ 13.3%）	29（ 11.4%）
4．わからない	186（ 17.6%）	151（ 18.9%）	35（ 13.7%）
ＮＡ	371（ 35.2%）	277（ 34.6%）	94（ 36.9%）
計	1,055(100.0%)	800(100.0%)	255(100.0%)

問８の配偶者の介護については、全員に聞いているので先に述べた傾向はさらに明確になり、ホームヘルパー・デイセンターの併用は54.4%となり、圧倒的多数派となる。

ただ、自分自身の介護については問９にみるように、家族に過度の身体的・精神的負担をかけたくないという意識が働くのであろうか、ホームヘルパー・デイセンターの併用や家族だけでの自宅介護は配偶者の場合に比べて減少し、老人ホームや病院などへの入所・入院が33.0%

問８　（全員におうかがいします）あなたの配偶者が介護を必要とするようになった場合に（未婚の方は仮にでお考えください）、あなたはどのようにするおつもりですか。あてはまるもの一つに○をつけてください。

	計	1. 豊田市	2. 刈谷市
1．家族が自宅で介護	159（ 15.1%）	123（ 15.4%）	36（ 14.1%）
2．ホームヘルパー、デイセンターを併用	573（ 54.4%）	425（ 53.3%）	148（ 58.0%）
3．老人ホームや病院など福祉・医療施設	178（ 16.9%）	142（ 17.8%）	36（ 14.1%）
4．わからない	120（ 11.4%）	93（ 11.7%）	27（ 10.6%）
ＮＡ	23（ 2.2%）	15（ 1.9%）	8（ 3.1%）
計	1053(100.0%)	798(100.0%)	255(100.0%)

と配偶者の２倍に高まる。

問９　（全員におうかがいします）あなた自身が介護を必要とするようになった場合に、あなたはどのようにしてほしいですか。あてはまるもの一つに○をつけてください。

	計	1. 豊田市	2. 刈谷市
1．家族が自宅で介護	124(11.7%)	93(11.6%)	31(12.2%)
2．ホームヘルパー、デイセンターを併用	465(44.0%)	357(44.6%)	108(42.4%)
3．老人ホームや病院など福祉・医療施設	348(33.0%)	263(32.8%)	85(33.3%)
4．わからない	108(10.2%)	83(10.4%)	25(9.8%)
ＮＡ	11(1.0%)	5(0.6%)	6(2.4%)
計	1,056(100.0%)	801(100.0%)	255(100.0%)

豊田市、刈谷市はほぼよく似た数字を示しているが、ホームヘルパー・デイセンター併用が刈谷市においてやや多い傾向が見られる。

⑸　少子化

問10.　少子化問題

問10　あなたは日本の少子化についてどのようにお考えですか。あなたのお考えに最も近いもの一つに○をつけてください。

	計	1. 豊田市	2. 刈谷市
1．少子化は大きな社会問題であり対策必要	636(60.2%)	470(58.6%)	166(65.1%)
2．出産は本人の問題で出産奨励策は無意味	293(27.7%)	229(28.6%)	64(25.1%)
3．少子化はむしろ望ましい	101(9.6%)	84(10.5%)	17(6.7%)
ＮＡ	27(2.6%)	19(2.4%)	8(3.1%)
計	1,057(100.0%)	802(100.0%)	255(100.0%)

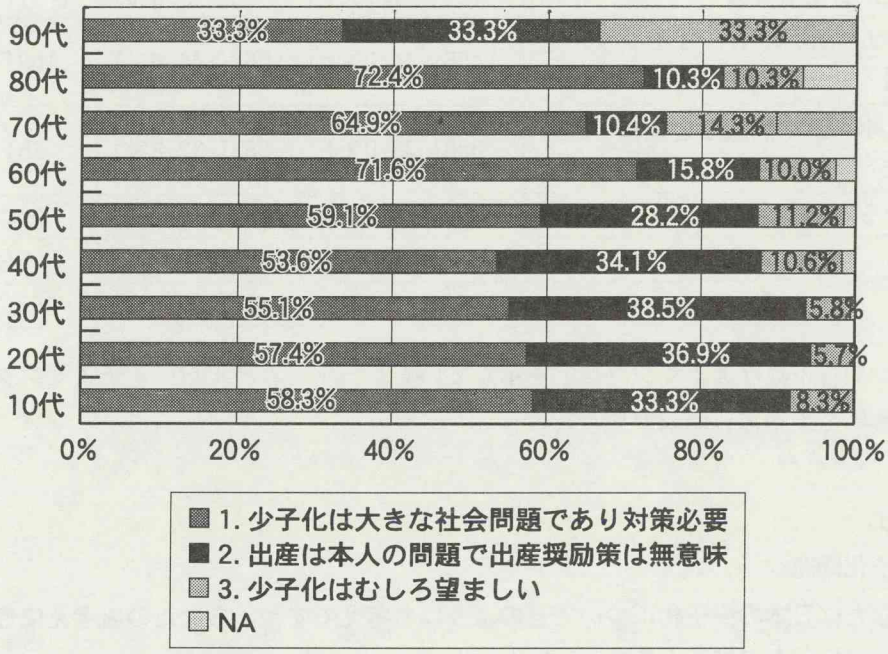
次に、日本の少子化についてどのような考えをもっているかについて聞いた。その結果、「少子化は大きな社会問題であり対策が必要」と少子化を問題視している人が60.2%、「出産は本人の問題で出産奨励策は無意味」と個人の問題に社会や政治が関わっても無意味だとする人が27.7%、「少子化はむしろ望ましい」と少子化を肯定的にとらえる人が9.6%となった。

これを年齢別に見ると、図２－２－13に示すように、サンプル数の少ない90代を除きすべての年齢層で少子化を問題視している人が多く、60代以上の高年齢層では60～70%台と圧倒的である。しかし、10～40代の若年層から中年層では３割以上の人が少子化のための政策は無意味

で政治の関わる問題でないと考えており、出産能力のある世代とそうでない世代のこの問題に対するとらえ方の違いを浮き彫りにしている。

また、40代以上では少子化をむしろ肯定的にとらえる人が1割以上いることも注目される。

図2－2－13　少子化に対する考え方



問10－1．少子化対策

次に、少子化を問題視した人にどのような対策をとることが最も重要かを聞いた。それによると、「地域の子育て支援体制を充実させること」が23.5%で最も多く、「出産・育児手当の充実」が13.2%でそれに次ぎ、以下「育児休業中の所得補償の充実」、「妊娠中の女性の労働環境整備」、「育児中の父親の労働時間の短縮」の順となっている。

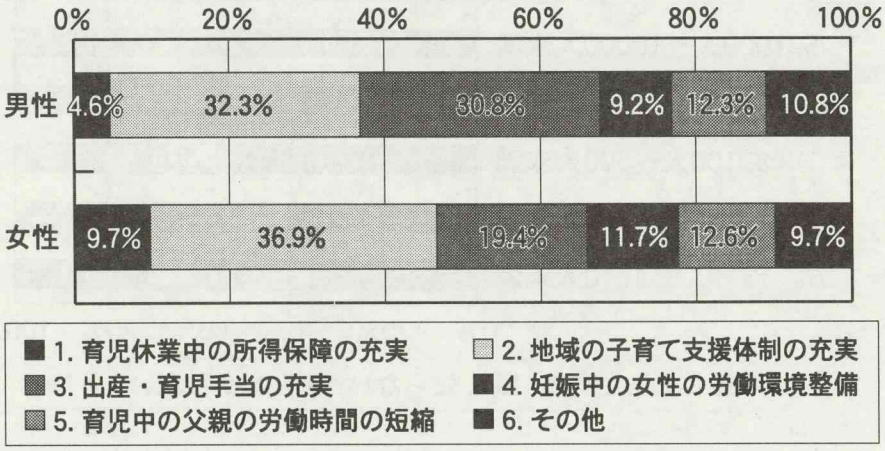
これを、さらに結婚、出産の主たる対象世代である20代、30代の人たちの意見を男女別に見ると、図2－2－14のようになる。

男女とも「地域の子育て支援体制の充実」が最も多いが、男性では「出産・育児手当の充実」がほぼ前者に匹敵するほどの支持を集めているのに対し、女性ではそれほど多くはない。また「育児休業中の所得補償の充実」は男性では少ないが、女性では男性の2倍になっている。「妊娠中の女性の労働環境の整備」や「育児中の父親の労働時間の短縮」については、それほど大きな性による差は見られなかった。これは、職業に対する性意識が均質化してきていることの一つの表れと見ることができる。

問10－1　（1と答えた方におうかがいします）どのような対策が最も重要だとお考えですか。
あてはまるもの一つに○をつけてください。

	計	1. 豊田市	2. 刈谷市
1．育児休業中の所得保障の充実	81（ 7.8%）	64（ 8.1%）	17（ 6.8%）
2．地域の子育て支援体制の充実	246（ 23.5%）	182（ 22.9%）	64（ 25.5%）
3．出産・育児手当の充実	138（ 13.2%）	99（ 12.5%）	39（ 15.5%）
4．妊娠中の女性の労働環境整備	79（ 7.6%）	55（ 6.9%）	24（ 9.6%）
5．育児中の父親の労働時間の短縮	52（ 5.0%）	38（ 4.8%）	14（ 5.6%）
6．その他	39（ 3.7%）	30（ 3.8%）	9（ 3.6%）
NA	410（ 39.2%）	326（ 41.1%）	84（ 33.5%）
計	1,045（100.0%）	794（100.0%）	251（100.0%）

図2－2－14　少子化対策で重要と思われる事項（若年層）



(6) 社会貢献・ボランティア活動

問11. 企業の社会貢献活動の認知度

市内の企業で社会貢献活動を行っている会社を知っているかを聞いた。それによると知っている人が43.3%、知らない人が28.8%、「わからない」と答えた人が26.4%となった。

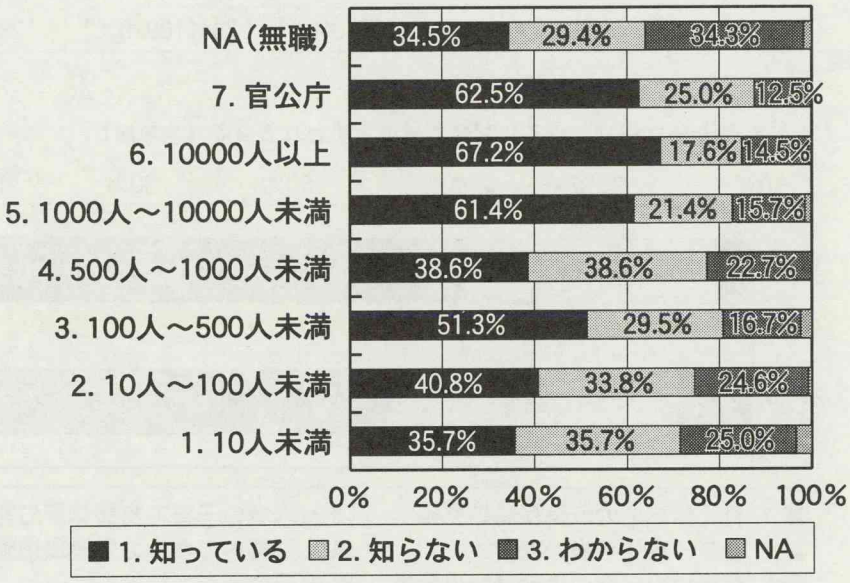
半数近くの市民に企業の社会貢献活動が認知されているが、両市を比較すると刈谷市の方が若干高い。

これを回答者の勤務先の企業規模別に見ると図2－2－15のようになり、1,000人以上の大企業従業員は6割以上の人が企業の社会貢献活動を知っているが、100人以下の小企業に勤める人や職業についていない市民の認知度は4割またはそれを下回り、企業の社会貢献活動が十分に一般市民に浸透しているとはいいがたい。

問11　豊田（刈谷）市内にある会社で、ボランティア活動や寄付などを通じて社会貢献活動を行っている会社をご存じですか。

	計	1. 豊田市	2. 刈谷市
1．はい	457(43.3%)	333(41.6%)	124(48.6%)
2．いいえ	304(28.8%)	234(29.2%)	70(27.5%)
3．わからない	279(26.4%)	219(27.3%)	60(23.5%)
NA	16(1.5%)	15(1.9%)	1(0.4%)
計	1,056(100.0%)	801(100.0%)	255(100.0%)

図２－２－15　勤務先規模別　企業社会貢献認知度



問12. 企業の社会貢献活動に対する考え方

企業が本業以外の社会貢献活動に取り組むことについて、市民の考え方を確認した。それによると、「積極的に取り組むのがよい」が32.8%、「経営に負担がかからない程度に」が51.8%で、「企業が取り組む必要はない」という否定的意見は2.1%にとどまった。これにより、企業の社会貢献活動には程度の差こそあれ、市民が肯定的に評価していることが確認された。

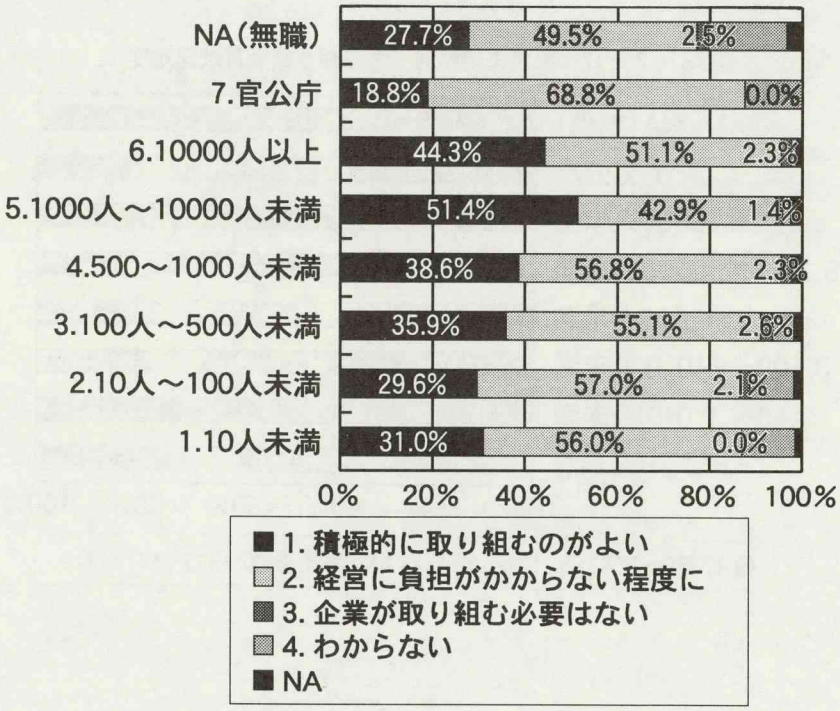
これを勤務先の企業規模別に見ると、図２－２－16に示したように、1,000～10,000人の企業では「社会貢献活動に積極的に取り組むのがよい」という考え方が最も多いのに対し、10,000人以上と1,000人未満の企業の従業員は「経営に負担がかからない程度に」が最も多い。特に大企業においては積極的な社会貢献活動を展開している企業が多く、従業員はそれを好意的に感じているものの、ほどほどにという意識も同時に働いているものと考えられる。

また、公務員は「積極的に取り組むのがよい」と考える人は18.8%と少なく、大半が「経営に負担がかからない程度に」と考えている。

問12　企業の社会貢献活動についてどのようにお考えですか。あなたのお考えに最も近いもの一つに○をつけてください。

	計	1. 豊田市	2. 刈谷市
1．積極的に取り組むのがよい	347(32.8%)	262(32.7%)	85(33.3%)
2．経営に負担がかからない程度に	547(51.8%)	405(50.5%)	142(55.7%)
3．企業が取り組む必要はない	22(2.1%)	18(2.2%)	4(1.6%)
4．わからない	116(11.0%)	95(11.8%)	21(8.2%)
NA	25(2.4%)	22(2.7%)	3(1.2%)
計	1,057(100.0%)	802(100.0%)	255(100.0%)

図２－２－16　企業の社会貢献に対する考え方



問13. 労働組合の社会貢献活動の認知度

それでは、労働組合の社会貢献活動に対する認知度はどうであろうか。知っている人は36.5%、知らない人は35.4%でほぼ拮抗しており、知っている人の割合は企業の社会貢献活動を知っている人より、約７％少ない。

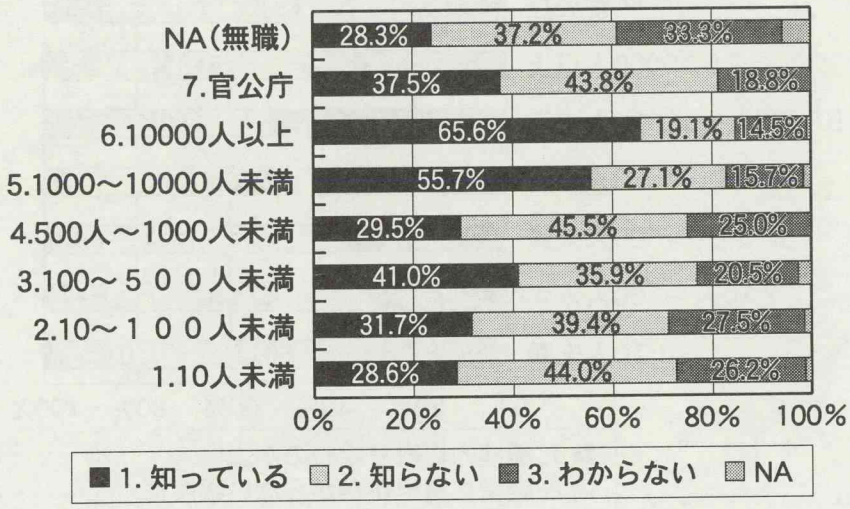
図２－２－17に勤務先の企業規模別の労働組合の社会貢献活動に対する認知度を示したが、企業の社会貢献活動の認知度とほぼ同じような傾向を示し、大企業従業員の認知度は高いが、小企業の従業員や、公務員、無職の一般市民にはあまり知られていない。特に公務員においては会社の社会貢献活動を62.5%が知っているのに対し、労働組合の社会貢献活動を知っている

のはわずかに37.5%で、企業の広報活動に比べてメディアを使った社会貢献の広報活動が不足していることが、一つの要因と考えられる。

問13　豊田（刈谷）市内にある企業の労働組合で、ボランティア活動や寄付などを通じて社会貢献活動を行っている労働組合をご存じですか。

	計	1. 豊田市	2. 刈谷市
1．はい	386(36.5%)	281(35.0%)	105(41.2%)
2．いいえ	374(35.4%)	292(36.4%)	82(32.2%)
3．わからない	284(26.9%)	219(27.3%)	65(25.5%)
NA	13(1.2%)	10(1.2%)	3(1.2%)
計	1,057(100.0%)	802(100.0%)	255(100.0%)

図２－２－17　勤務先規模別　労働組合社会貢献認知度



問14. 労働組合の社会貢献活動に対する考え方

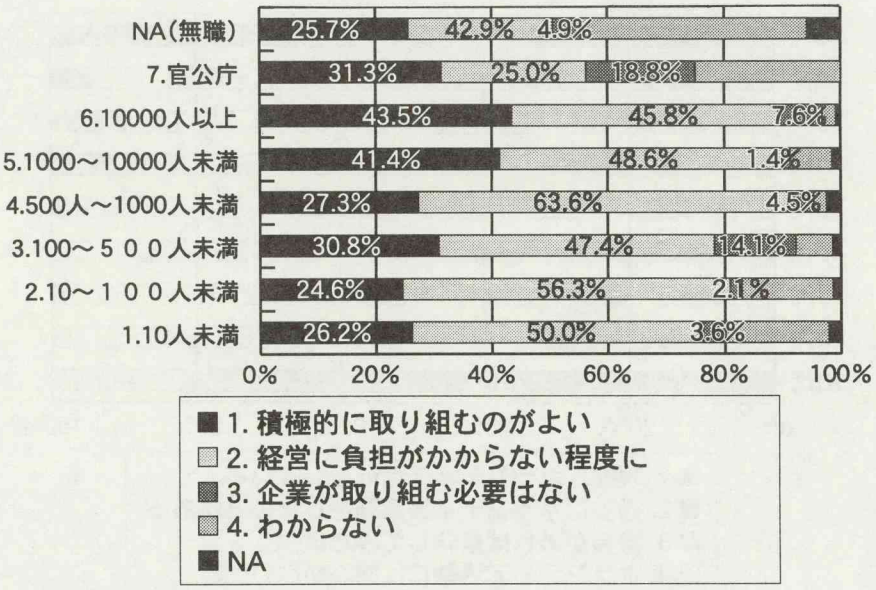
次に、企業の場合と同様に、労働組合の社会貢献活動に対する市民の考え方を確認した。この結果は、「積極的に取り組むのがよい」が29.5%、「収支に負担がかからない程度に」が46.8%で、「労働組合が取り組む必要はない」が5.4%となり、企業のケースと同様、肯定的な意見が大勢を占めた。

これを企業規模別に見ると、図２－２－18のように、1,000～10,000人、および10,000人以上の大企業で「積極的に取り組むのがよい」という意見が多い。

問14　労働組合の社会貢献活動についてどのようにお考えですか。あなたのお考えに最も近いもの一つに○をつけてください。

	計	1. 豊田市	2. 刈谷市
1．積極的に取り組むのがよい	312(29.5%)	236(29.4%)	76(29.8%)
2．収支に負担がかからない程度に	495(46.8%)	369(46.0%)	126(49.4%)
3．労働組合が取り組む必要はない	57(5.4%)	43(5.4%)	14(5.5%)
4．わからない	171(16.2%)	134(16.7%)	37(14.5%)
NA	22(2.1%)	20(2.5%)	2(0.8%)
計	1,057(100.0%)	802(100.0%)	255(100.0%)

図２－２－18　労働組合の社会貢献に対する考え方



問15.　ボランティア経験の有無

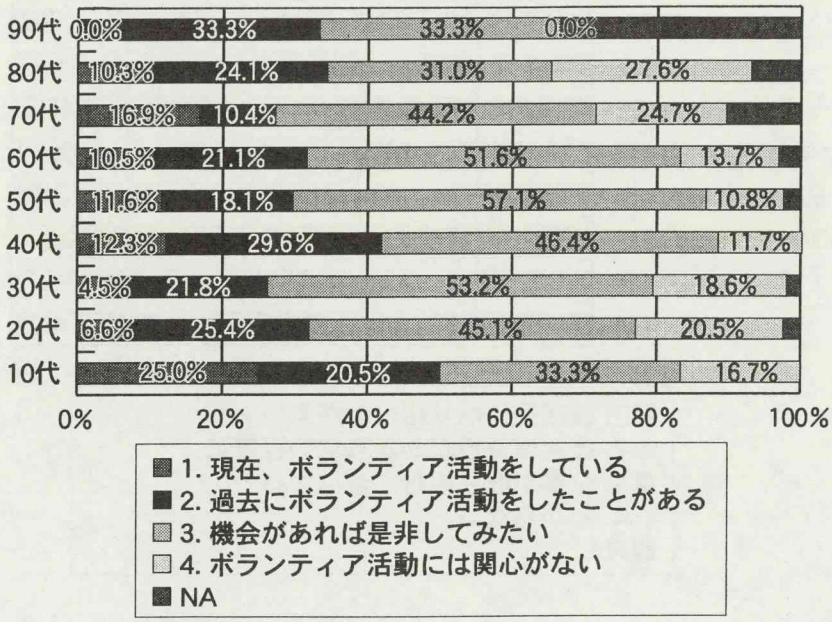
問15　あなたはボランティア活動をしていますか（したことがありますか)。あてはまるもの一つに○をつけてください。

	計	1. 豊田市	2. 刈谷市
1．現在、ボランティア活動をしている	108(10.2%)	82(10.2%)	26(10.2%)
2．過去にボランティア活動をしたことがある	228(21.6%)	176(21.9%)	52(20.4%)
3．機会があれば是非してみたい	533(50.4%)	398(49.6%)	135(52.9%)
4．ボランティア活動には関心がない	162(15.3%)	125(15.6%)	37(14.5%)
NA	26(2.5%)	21(2.6%)	5(2.0%)
計	1,057(100.0%)	802(100.0%)	255(100.0%)

次にボランティア活動の経験の有無を聞いた。これによると、現在活動中の人が10.2%、過去に経験のある人が21.6%で、合計するとおよそ３人に１人はボランティアの経験をしていることがわかる。また、機会があればしてみたい人が50.4%おり、潜在的にボランティアに関心を持っている人は多く、市民社会にボランティア活動の土壌が根付いており、ボランティア活動には関心のない人はわずか15.3%であった。

これを年齢別に見ると、図２－２－19のように、現在実際にボランティア活動に携わっている比率が最も高いのは10代で、70代がそれに続く。過去に経験のある人を含めると、10代の次に40代が続く。また、機会があればしてみたい人は、50代、60代の中高年層と30代で半数以上に上り、ほぼ全世代にボランティアの気運は高まっているといえる。

図２－２－19　ボランティア経験の有無



問15－１．ボランティア活動への参加形態

問15－１　（１．または２．と答えた方におうかがいします）ボランティア活動はどのような形でされていますか（されていましたか）。

	計	1. 豊田市	2. 刈谷市
１．サークルに所属し、活動を行っている	183(17.3%)	143(17.9%)	40(15.7%)
２．個人レベルで活動を行っている	147(13.9%)	108(13.5%)	39(15.3%)
ＮＡ	726(68.8%)	550(68.7%)	176(69.0%)
計	1,056(100.0%)	801(100.0%)	255(100.0%)

ボランティア経験のある人に何かのサークルに入って活動したか、個人レベルで活動したかを聞いた。その結果は経験のある人の半数以上がサークルに所属して活動を行っていることが

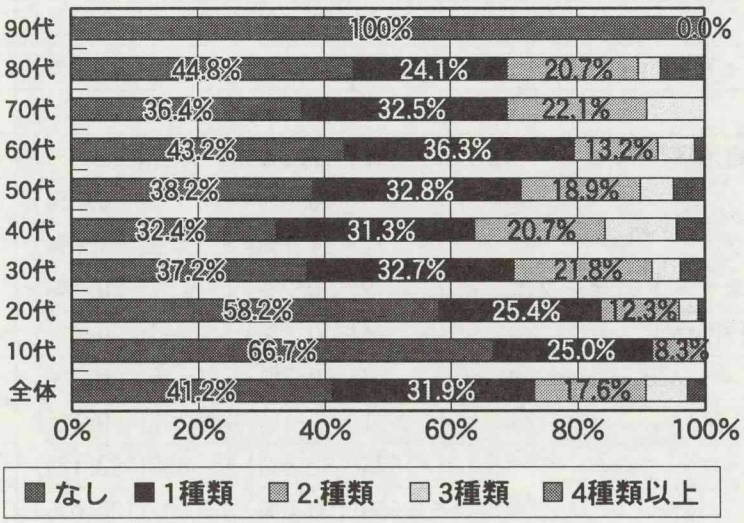
わかった。

問16. 現在の所属団体

問16　あなたが現在所属し、かつ活動している会や団体に○をいくつでもつけてください。

	計	1. 豊田市	2. 刈谷市
1．趣味のサークル	164(15.5%)	133(16.6%)	31(12.2%)
2．教養・学習のサークル	60(5.7%)	49(6.1%)	11(4.3%)
3．スポーツのサークル	164(15.5%)	126(15.7%)	38(14.9%)
4．市民活動・住民運動などの団体	23(2.2%)	17(2.1%)	6(2.4%)
5．政治団体（後援会など）	21(2.0%)	17(2.1%)	4(1.6%)
6．宗教団体	49(4.6%)	36(4.5%)	13(5.1%)
7．ボランティア・社会奉仕の団体	59(5.6%)	44(5.5%)	15(5.9%)
8．労働組合	63(6.0%)	45(5.6%)	18(7.1%)
9．町内会・自治区	217(20.5%)	159(19.8%)	58(22.7%)
10. ＰＴＡ	64(6.1%)	49(6.1%)	15(5.9%)
11. 老人クラブ	76(7.2%)	62(7.7%)	14(5.5%)
12. インターネット上のサークル	11(1.0%)	10(1.2%)	1(0.4%)
13. 社内の各種団体	49(4.6%)	39(4.9%)	10(3.9%)
14. その他	33(3.1%)	27(3.4%)	6(2.4%)
15. なし	312(29.5%)	231(28.8%)	81(31.8%)
ＮＡ	128(12.1%)	101(12.6%)	27(10.6%)
計	1,493(141.2%)	1,145(142.8%)	348(136.5%)

図２－２－20　加入サークル種類数



次にどのようなサークルや団体に所属しているかを聞いた。多い順に記述すると、町内会・自治区（20.5%）、趣味のサークル、スポーツのサークル（ともに15.5%）、老人クラブ（7.2%）、ＰＴＡ（6.1%）、労働組合（6.0%）、趣味・学習のサークル（5.7%）、ボランティア・社会奉仕の団体（5.6%）の順となる。

ところで、どの団体にも所属していないと答えた人は29.5%おり、無回答だった12.1%の多くがやはりどの団体にも所属していないと考えると、その数は約４割にも上る。

加入サークル数（実際には例えば趣味のサークルに複数所属しているというケースもあるので加入サークル種類数というべき）を年齢別に見ると図２－２－20のようになる。

10代、20代ではどれにも所属していない人が半数を超えるが、30代の、家庭や子供を持つ年代になると何らかのサークルに所属する人は増え、複数のサークルに参加する人も40代では４割近くに達する。一般的な定年年齢の60歳を越えるとサークル加入数は減るが60代以上の高齢者も90代を除き半数以上は何らかのサークルに所属している。

次に同じ質問で最も力を注いでいるものに◎をつけるよう付属質問を設定した。しかしながら、質問の仕方が悪かったためか、回答した人は少なく参考意見にとどまる。そのうち、所属団体では最も多かった町内会・自治会に◎をつけた人はスポーツや趣味のサークルより少なく、その関わり方の強さの面で比較するとやや見劣りするものとなっている。

そのうち最も力を注いで活動しているものに◎をつけてください。

	計	1. 豊田市	2. 刈谷市
1．趣味のサークル	33（ 3.1%）	28（ 3.5%）	5（ 2.0%）
2．教養・学習のサークル	13（ 1.2%）	9（ 1.1%）	4（ 1.6%）
3．スポーツのサークル	45（ 4.3%）	38（ 4.7%）	7（ 2.7%）
4．市民活動・住民運動などの団体	3（ 0.3%）	2（ 0.2%）	1（ 0.4%）
5．政治団体（後援会など）	0（ 0.0%）	0（ 0.0%）	0（ 0.0%）
6．宗教団体	15（ 1.4%）	11（ 1.4%）	4（ 1.6%）
7．ボランティア・社会奉仕の団体	14（ 1.3%）	10（ 1.2%）	4（ 1.6%）
8．労働組合	4（ 0.4%）	3（ 0.4%）	1（ 0.4%）
9．町内会・自治区	26（ 2.5%）	21（ 2.6%）	5（ 2.0%）
10．ＰＴＡ	3（ 0.3%）	2（ 0.2%）	1（ 0.4%）
11．老人クラブ	12（ 1.1%）	8（ 1.0%）	4（ 1.6%）
12．インターネット上のサークル	2（ 0.2%）	1（ 0.1%）	1（ 0.4%）
13．社内の各種団体	4（ 0.4%）	3（ 0.4%）	1（ 0.4%）
14．その他	7（ 0.7%）	6（ 0.7%）	1（ 0.4%）
15．なし	1（ 0.1%）	1（ 0.1%）	0（ 0.0%）
ＮＡ	874（ 82.8%）	658（ 82.1%）	216（ 84.7%）
計	1,056（100.0%）	801（100.0%）	255（100.0%）

逆に宗教団体や、ボランティア・社会奉仕の団体は所属団体ではそれほど多くなかったが、力を注いでいるものとしては上位に位置付けられ、所属している人の打ち込み方は相対的に強いといえる。

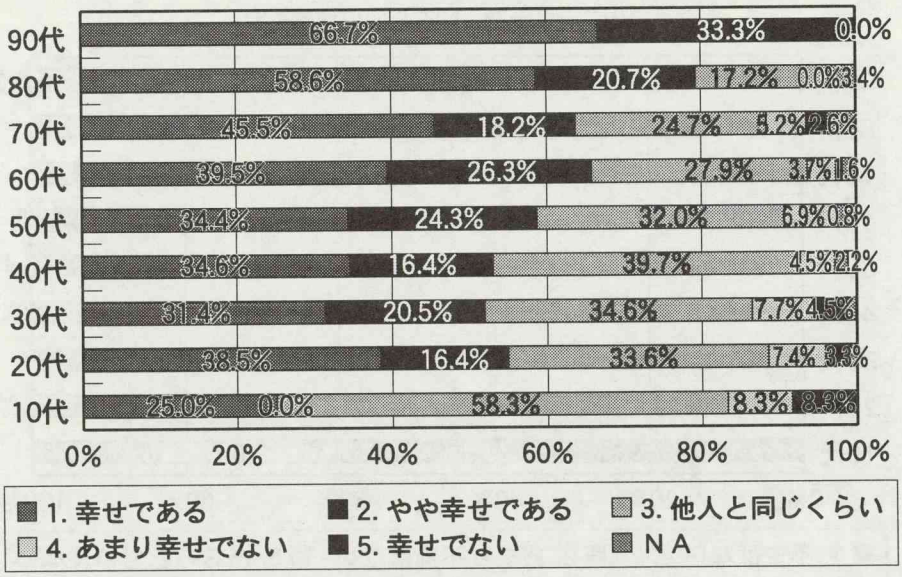
(7) 幸福感・老後の不安

問17　幸福感

問17　あなたは同年輩（同世代）の人に比べて幸せだと思いますか。それともそうは思いませんか。あてはまるもの一つに○をつけてください。

	計	1. 豊田市	2. 刈谷市
1．自分は幸せである	386(36.6%)	300(37.4%)	86(33.9%)
2．自分はやや幸せである	227(21.5%)	166(20.7%)	61(24.0%)
3．他の人と同じくらいである	342(32.4%)	257(32.0%)	85(33.5%)
4．自分はあまり幸せでない	61(5.8%)	45(5.6%)	16(6.3%)
5．自分は幸せでない	26(2.5%)	23(2.9%)	3(1.2%)
NA	14(1.3%)	11(1.4%)	3(1.2%)
計	1,056(100.0%)	802(100.0%)	254(100.0%)

図２－２－21　幸福感



次に、同世代の人と比べて幸せだと感じるかを聞いた。その結果、幸せだと感じる人が36.6%、やや幸せだと感じる人が21.5%で合わせて６割近くを占めた。逆に幸せでないと感じる人は2.5%、あまり幸せでないと感じる人は5.8%で合わせても１割を切るレベルであり全体的に幸せだと感じている人が多い。特に豊田市において幸せだと感じる人（やや幸せだと感じる人を除く）は37.4%と高い値を示している。

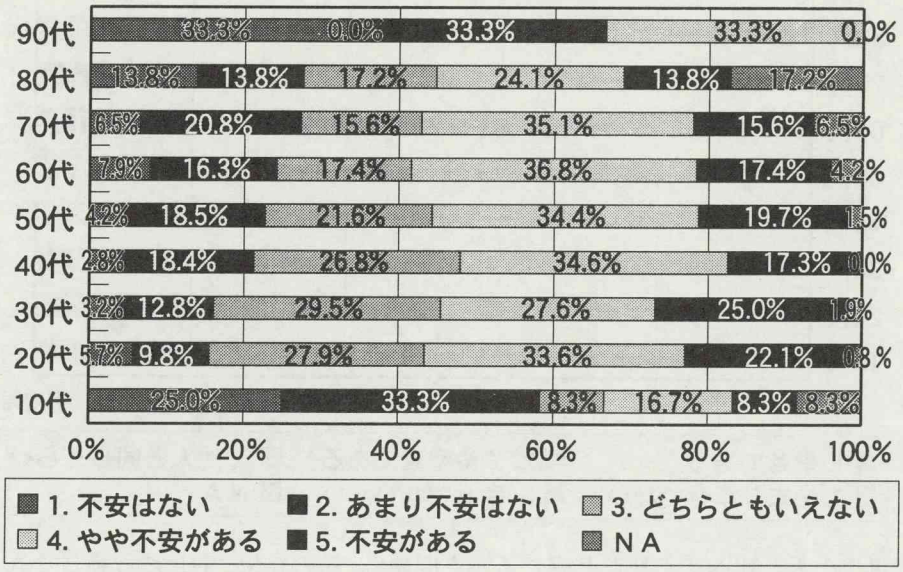
これを年齢別に見ると、図２－２－21のように、まだ個人差が表面化せず判断がつきかねる10代を別として、30代を底として年齢が増すにつれて、幸福であると感じる人の割合が増加しており、やや幸せであると感じている人を含めた幸福であると感じている人の割合は、60代、70代で60％台、80代では８割近くになり、90代では対象者は少ないものの100％となっている。

問18. 60歳以降の生活不安

問18　あなたの60歳以降の生活について、次のおのおのの事柄について不安がありますか。あてはまるもの一つに○をつけてください。(60歳以上の方はこれから先のことについてお答えください。)

	1．不安はない	2．あまり不安はない	3．どちらともいえない	4．やや不安がある	5．不安がある	NA
(1)　健康	5.4%	16.0%	22.8%	33.2%	19.6%	3.0%
(2)　生計	6.7%	19.4%	22.1%	28.9%	17.4%	5.4%
(3)　家族との交流	20.0%	34.2%	25.4%	10.2%	4.4%	5.8%
(4)　近隣・地域の人との交流	11.0%	31.9%	35.9%	10.8%	4.2%	6.3%
(5)　余暇の過ごし方	16.7%	34.5%	26.0%	11.9%	4.9%	5.9%

図２－２－22　60歳以降の健康不安



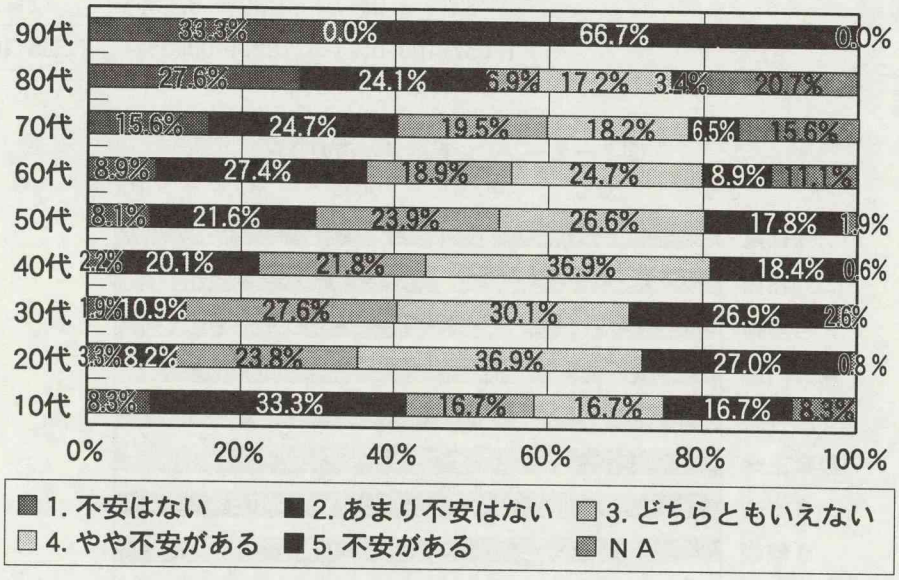
60歳以降の生活についてどの程度不安を持っているかを尋ねた。不安があると答えた人（「不安がある」と「やや不安がある」の合計）は、健康についての不安が最も多く52.8％となった。続いて生計についての不安が46.3％で大きい。家族との交流、近隣・地域との交流、

余暇の過ごし方についてはいずれも10%台であまり大きくなく、不安でないと答えた人（「不安でない」と「あまり不安でない」の合計）が大きく上回っている。

不安があると答えた人が多かった健康、生計に関し年齢別に見ると図２－２－22、図２－２－23のとおりである。

まず、健康については、10代とサンプルの少ない90代を除き、各年代で50%以上の人が健康に対して不安を感じている。しかし、年代が上がるにつれて不安を感じていない人は徐々に増加する傾向を示しており、若い頃は先のことを不安に感じていたが、実際にその年代に達するとだんだんと健康に自信を持ってくるという、中高年層の比較的良好な健康状態と年齢的な精神構造の移り変わりを反映し興味深い。

図２－２－23　60歳以降の生計不安



さて、次の生計についての60歳以降の不安であるが、不安に感じている人は20代から40代までは６割前後に達し、60歳に近づいた50代では５割を切ってくる。ところが60歳になると３割に、70代、80代では２割に下がり、60代以上では生計に不安のない人のほうが、不安のある人を上回り、経済的にかなり満たされた高齢者の生活ぶりが浮き彫りになった。

(8) 企業と地域の共存

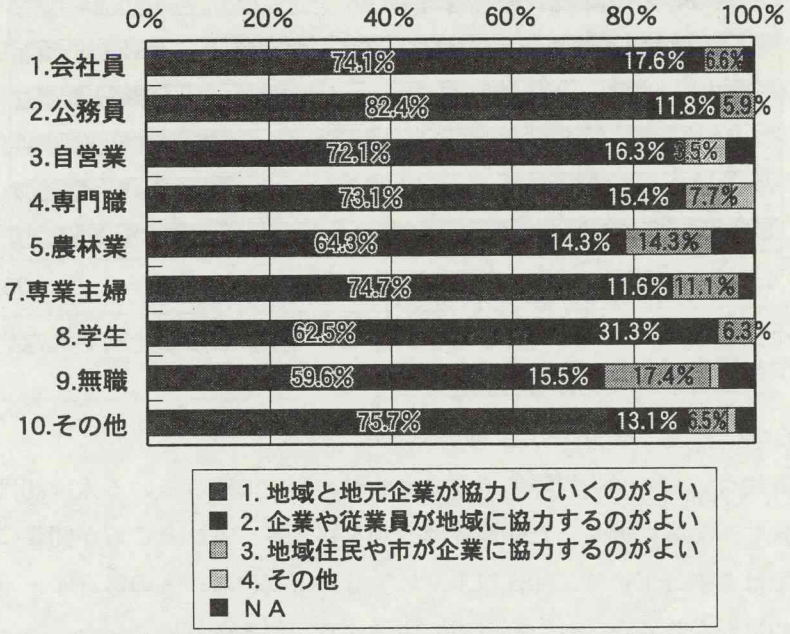
市の行政や市民の幸福を考える上で、地元企業の存在がどれほど大切であるか、そのためには市と企業がどのような関係にあることが望ましいかを聞いた。その結果「地域と地元企業が協力していくのがよい」と共存共栄の関係を支持する意見が70.9%を占めた。その他「企業や従業員が地域に協力するのがよい」と地域を主体に考える意見が15.6%、地域住民や市が企業

問19. 企業経営と市の行政

問19　市の行政や市民の幸福を考える上で、地元の企業はどの程度大切であると思いますか。次の中からあなたのお考えに近いもの一つに○をつけてください。

	計	1. 豊田市	2. 刈谷市
1．地域と地元企業が協力していくのがよい	749(70.9%)	562(70.1%)	187(73.3%)
2．企業や従業員が地域に協力するのがよい	165(15.6%)	121(15.1%)	44(17.3%)
3．地域住民や市が企業に協力するのがよい	99(9.4%)	79(9.9%)	20(7.8%)
4．その他	12(1.1%)	10(1.2%)	2(0.8%)
NA	32(3.0%)	30(3.7%)	2(0.8%)
計	1,057(100.0%)	802(100.0%)	255(100.0%)

図２－２－24　企業経営と市の経営



に協力するのがよい」と企業を主体に考える意見が9.9%となった。その他は1.1%で大半が地域と地元企業の共存共栄の関係を支持しており、両市にとっての地元大企業や関連する企業群の存在の大きさが再確認できた。

これを職業別で確認すると（教員はサンプル数が２名のため除外）、図２－２－24のとおりである。企業とは縁の薄い、無職、学生、農業においては企業と地域の共存共栄を支持する意見は相対的に少ないが、それでも６割前後を占めている。

地域と企業のどちらを主体として考えるかを比較すると、会社員を中心として概ね企業が地域に協力する地域主体型運営を支持する意見が多いが、無職、専業主婦、農業など企業との関係が薄い人がむしろ企業主体型運営を支持しているのが興味深い。

また、専門職、自営業の中に一部「その他」の意見が見られ、これは企業と地域との協力関係を否定する意見と思われるが、率としてはそれほど大きなものではなく、市民の大半が企業と地域の協力関係が必要であると認めているといってよい。

問20. 市と企業の施設利用

問20　次のような施設で、市の施設と地元企業の施設の両方が利用できるとした場合、あなたならどちらを利用しますか。

	1．市の施設を利用する	2．会社の施設を利用する	3．一概にはいえない	4．利用する予定はない	NA
(1)　グラウンド、体育館などのスポーツ施設	35.6%	6.6%	33.6%	17.2%	6.9%
(2)　会議室、ホールなどの文化・教養施設	37.5%	6.1%	33.6%	15.4%	7.4%
(3)　近隣や行楽地などの宿泊・保養施設	20.9%	21.8%	42.5%	9.3%	5.5%

大企業は従業員の福利厚生のためにいろいろな施設を保有している。市も市民のために同様の施設を保有しているが、両方が利用可能である場合どちらを利用したいかを聞いた。これによると、スポーツ施設や文化・教養施設は市の施設を利用するという市民が多いが、宿泊・保養施設は企業の施設を利用したいという人が、市の施設を利用したいという人をわずかに上回った。宿泊・保養施設については一概にいえないと答えた42.5%を含めると、64.3%の市民が企業の宿泊・保養施設の利用の可能性を求めていることになる。この結果は地域住民への企業の利益還元や地域社会との共生の一つの方向性を示すものといえよう。

(9)　定年退職後の生活

問21. 定年退職後の生活

定年退職後、または、60歳以後の老後にどのような生活をしたいかを聞いた。それによると、「気楽に自由な生活を送りたい」人が26.6%で最も多く、「趣味を楽しむ生活をしたい」人の25.3%がそれに続く。これに「配偶者や子供との交流を楽しみたい」、「友人と交流する生活がしたい」人を合わせると、77.4%の人があまり束縛されずに余生を楽しみたいと考えていると見ることができる。

それに対し、60歳以後も仕事を続けたいと考えている人は13.9%おり、そのうち5.0%は現在の仕事とは別の仕事をしたいと考えている。

老後は社会に貢献したいと考えている人は5.4%で、そのうち「ボランティア活動などによ

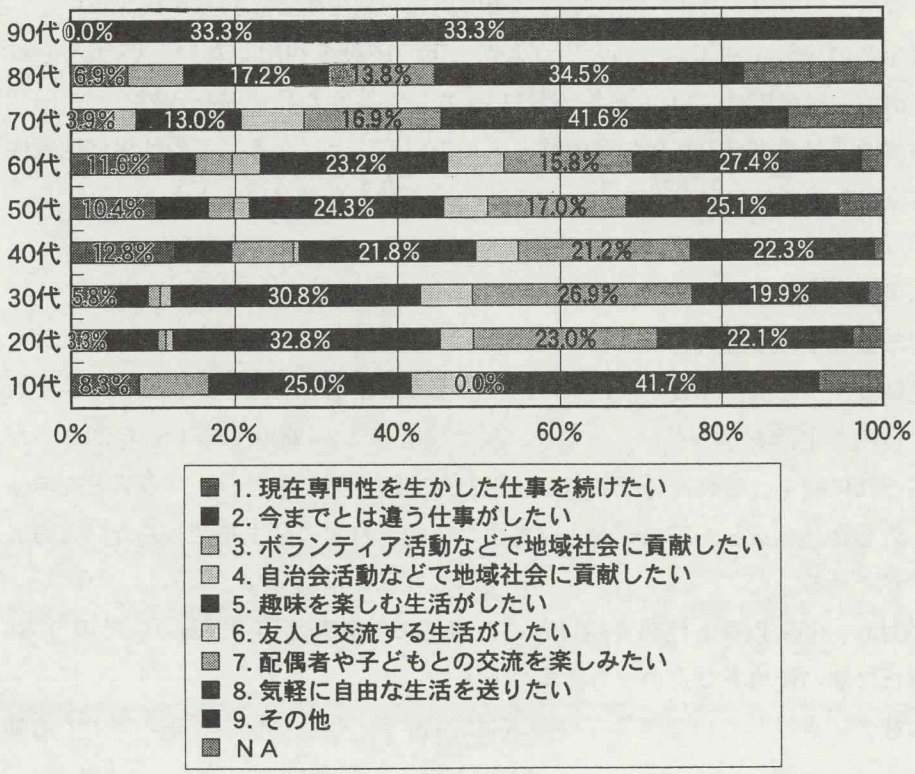
る社会貢献」が3.7%、「自治会活動などによる社会貢献」が1.7%となっている。

これを年齢別に見ると図２－２－25のようになる。20代、30代では定年後には悠悠自適の生

問21　あなたは、定年退職後（または、60歳以降）どのような生活をしたいと考えていますか。あなたのお気持ちに最も近いもの一つに○をつけてください。（60歳以上の方はこれから先のことについてお答えください。）

	計	1. 豊田市	2. 刈谷市
1．現在の専門性を生かした仕事を続けたい	92（ 8.9%）	70（ 9.0%）	22（ 8.8%）
2．今までとは違う仕事がしたい	51（ 5.0%）	37（ 4.7%）	14（ 5.6%）
3．ボランティア活動などで社会に貢献したい	38（ 3.7%）	28（ 3.6%）	10（ 4.0%）
4．自治会活動などで地域社会に貢献したい	17（ 1.7%）	12（ 1.5%）	5（ 2.0%）
5．趣味を楽しむ生活がしたい	260（ 25.3%）	196（ 25.2%）	64（ 25.7%）
6．友人と交流する生活がしたい	61（ 5.9%）	43（ 5.5%）	18（ 7.2%）
7．配偶者や子どもとの交流を楽しみたい	202（ 19.6%）	154（ 19.8%）	48（ 19.3%）
8．気楽に自由な生活を送りたい	273（ 26.6%）	213（ 27.3%）	60（ 24.1%）
9．その他	13（ 1.3%）	9（ 1.2%）	4（ 1.6%）
ＮＡ	21（ 2.0%）	17（ 2.2%）	4（ 1.6%）
計	1,028（100.0%）	779（100.0%）	249（100.0%）

図２－２－25　定年退職後の生活



活を送りたいと考えているが、定年が自分の問題としてとらえられる40代になると仕事を続けたいと考える人が若い世代に比べ倍増し２割に達する。定年直前の50代では仕事を続けたいとする人がやや少なくなるが16.6%、60代でも15.3%に達する。70代になるとさすがにその割合は少なくなるが、80代でも6.9%がさらに仕事を続けたいと考えている。

30代までは趣味を楽しむ生活をしたいと考えている人が最も多く、３割以上に達するが、40代になると気楽に自由な生活が送りたいと考える人が最も多くなる。趣味を楽しむ生活をしたいと考える人は60代まではかなり多いが、70代になると激減する。

社会貢献したいと考える人は、40代が8.4%で最も多く、60代、80代がそれに続いている。

⑽　人間関係

問22. 人間関係

問22　以下の⑴～⑸の各項目について、あてはまる方がいらっしゃいますか。あてはまる方すべてについて、その数字に○をつけてください。

		1. 親	2. 兄弟姉妹	3. 配偶者	4. 他の同居家族	5. 別居の子・親戚	6. 友人・知人	7. 地域・近隣の人	8. 同僚・上司・部下	9. いない	NA
⑴　心配事やグチを聞いてくれる人	豊田	19.5%	22.2%	62.5%	13.0%	8.0%	38.2%	5.1%	10.1%	4.5%	3.0%
	刈谷	27.1%	27.1%	63.1%	14.9%	7.5%	46.7%	4.7%	14.1%	1.6%	3.1%
⑵　病気で数日間寝込んだ時に看病してくれる人	豊田	18.2%	6.7%	68.6%	21.4%	6.5%	2.4%	0.4%	0.4%	5.6%	3.7%
	刈谷	23.5%	11.4%	72.5%	22.7%	5.9%	3.9%	0.8%	0.0%	4.7%	3.1%
⑶　病気で数か月寝込んだ時に看病してくれる人	豊田	22.8%	9.2%	66.2%	21.2%	8.2%	2.5%	0.2%	0.5%	7.7%	3.2%
	刈谷	28.2%	13.3%	69.0%	24.3%	10.2%	2.7%	1.2%	0.4%	5.9%	2.7%
⑷　元気づけてくれる人	豊田	19.2%	23.2%	58.1%	23.8%	11.5%	40.5%	7.5%	9.7%	3.9%	4.0%
	刈谷	25.1%	25.5%	59.2%	28.6%	12.5%	44.3%	4.7%	11.8%	2.0%	3.1%
⑸　いらいらさせたり怒らせたりする人	豊田	10.6%	6.4%	33.0%	19.8%	5.4%	4.9%	11.0%	19.6%	24.4%	6.7%
	刈谷	18.0%	5.5%	34.1%	20.0%	3.9%	7.1%	8.2%	24.3%	21.6%	6.7%

次に、市民がどのような人間関係にあり、周りからどのように助けられながら生活しているかを探るため、５項目について聞いた。

まず、⑴心配事や愚痴を聞いてくれる相談相手は配偶者が６割で最も多く、友人・知人が４割、以下、兄弟姉妹、親の順で、「いない」または無回答は合わせて約７％である。

次に病気で寝込んだ時に看病してくれる人を⑵数日間の軽い病気と⑶数か月の重病の場合に分けて聞いた。これによると、軽い病気の場合、配偶者が７割近くで圧倒的に多く、続いて、配偶者以外の同居家族、親の順となっている。重病の場合も配偶者の存在の重要さは変わらないが、親がその次にランクされて、軽い病気の時より親が看病にあたることが多くなる。看病

してくれる人がいない人は無回答も含め、約10%程度いる。

(4)元気づけてくれる人はやはり配偶者が多く6割近くを占める。友人・知人が4割で続き、同居家族、兄弟姉妹、親がそれに続き、悩みごとの相談相手とほぼ同じ傾向を示している。

(5)いらいらさせたり怒らせたりする人のトップも配偶者で3割強を占め、そのあと職場の同僚・上司・部下と同居家族が約2割でこれに続く。いらいらさせたり怒らせたりする人がいない人は無回答を含め約3割いるが、人間関係が全般的に疎遠なケースもあり、これらの人たちが良好な人間関係を保っていると断定するのは早計である。

ところで、豊田市と刈谷市を比較して、ある傾向に気づく。つまり、豊田市において親、兄弟姉妹、友人・知人との関わりが刈谷市の場合より明らかに少なく、親の場合で5～8%、兄弟姉妹で2～5%、友人・知人の場合、看病のケースを除き4～8%の差となっている。これは、おそらく豊田市において就職のために他府県から転入した人が多く、そのため親、兄弟との別居を余儀なくされ、幼なじみや学校時代の友人とも別れ別れになっている状況を表しており、その結果、相談相手や看病をしてくれる人がいない人の比率も豊田市のほうが数%ずつ多いと見ることができる。

(11) 物事に対する考え方

問23. 重要な行動基準

問23 ご自分に関して、以下の項目についてどれくらい重要であるとお考えですか。あてはまるもの一つに○をつけてください。

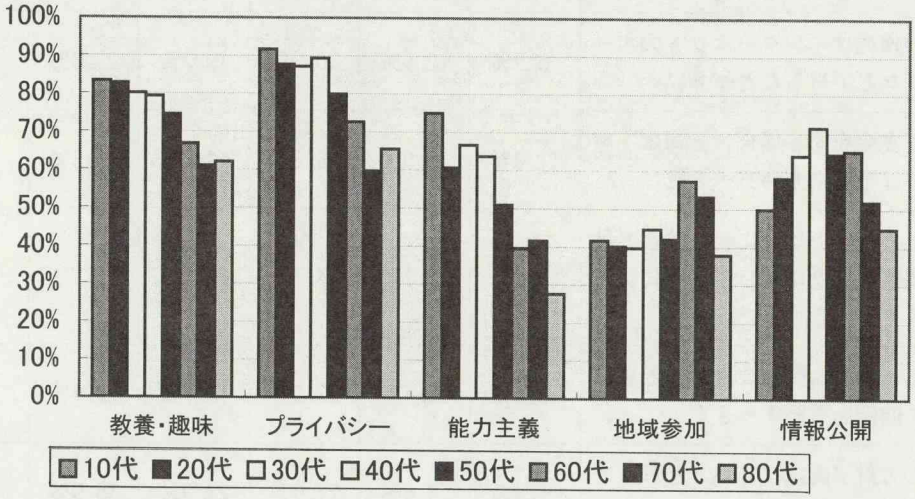
	1．重要である	2．やや重要である	3．どちらともいえない	4．あまり重要でない	5．重要でない	NA
(1) 生涯を通じて教養を高め、趣味を広げられること	42.3%	31.4%	14.4%	4.2%	1.4%	6.3%
(2) プライバシーが守れること	49.9%	30.0%	10.5%	2.2%	0.9%	6.5%
(3) 能力がある人がその能力にふさわしい地位や収入が得られること	26.7%	26.4%	30.2%	6.1%	2.8%	7.8%
(4) 地域の行事に参加すること	12.0%	33.0%	34.6%	9.6%	3.8%	6.9%
(5) 行政に関する情報公開が進むこと	33.3%	29.7%	23.4%	4.4%	2.0%	7.2%

「教養・趣味」「プライバシーの保護」「能力主義」「地域参加」「行政情報の公開」の５項目について、おのおのどの程度重要であると考えるかを確認した。

この結果、最も重要と考えているのは「プライバシーの保護」で「やや重要である」と答えた人を含めて、重要と考える人は79.9%に上り、重要でないと考える人は「あまり重要でない」と答えた人を含めても、3.1%にとどまった。続いて重要と考える人が多い項目は「趣味・教養」で73.7%、そのあと「行政情報の公開」が63.0%、「能力主義」が53.1%と続き、「地域参加」が45.0%で最も少ない。しかし、「地域参加」でも重要でないと考える人は13.4%にとどまり、上記５項目すべてを重要であると多くの人が考えていることが確認された。

これを年齢別に見るため、「重要」と答えた人と「やや重要」と答えた人の合計を図２－２－26に示したが、項目別に興味深い傾向が確認された。

図２－２－26　重要な行動基準（「重要」＋「やや重要」）



すなわち、「教養・趣味」、「プライバシー保護」、「能力主義」は若年層において重要と考える人が多く、高年齢になるほど下がること、「地域参加」は60代から70代にかけてピークになること、情報公開は中年層でピークになることの３つのパターンである。

特に40代まで「プライバシー保護」はほぼ９割が、「教養・趣味」はほぼ８割が重要と考えている。また「能力主義」は40代までが６割以上なのに対し、60代以上では関心が薄れる。

「地域参加」は60代、70代が５割を超えているのを除くと、各年代とも４割前後にとどまっている。「情報公開」は30代から60代まで６割を超えているが、若年層、老年層で関心が薄い。

問24. 人生観・職業観

問24　以下の項目についてあなたはどのようにお考えですか。あてはまるもの一つに○をつけてください。

	1．そう思う	2．ややそう思う	3．どちらともいえない	4．あまりそう思わない	5．そう思わない	NA
(1)　世の中は次第に暮らしよい方向に向かっている	1.3%	7.1%	23.1%	36.0%	26.2%	6.3%
(2)　自分は老後に明るい見通しを持っている	3.3%	9.6%	31.8%	29.1%	20.0%	6.2%
(3)　暮らしをよくするには一人一人が世の中の動きに関心を払うべきだ	39.3%	36.9%	13.2%	2.9%	1.3%	6.3%
(4)　新しい情報はインターネットのホームページなどで得ることが多い	5.2%	12.9%	30.2%	19.7%	23.8%	8.2%
(5)　職場で宴会をする場合、上司は上座に、部下は下座にすわるべきだ	11.8%	16.9%	26.2%	17.2%	20.3%	8.0%
(6)　職務上の問題とは別に、結婚など私生活の重要な判断に関して、上司にアドバイスを受けるべきだ	1.9%	5.7%	24.7%	25.3%	34.1%	8.4%
(7)　何であれ重要な問題を決めるときには、必ず前例を参照すべきだ	8.2%	19.4%	33.0%	18.7%	12.8%	8.0%
(8)　上司の方針が間違っていると思っても、その通りに仕事をするべきだ	1.4%	4.6%	21.6%	28.9%	35.9%	7.7%
(9)　伝統やしきたりを無視しても、自分の思うとおりにすることがよい結果を生む	1.3%	5.3%	36.0%	26.8%	23.0%	7.7%
(10)　自分の意見と全く違っても、多数決で決まったことは守らなければならない	20.2%	38.5%	21.8%	8.5%	3.7%	7.3%
(11)　環境問題は大変に複雑なので、専門家の意見に従って行動するのがよい	19.2%	33.4%	29.1%	7.9%	3.4%	7.0%
(12)　重要なものごとを決めるときには、その内容が大切で規定の手続きからはずれていたとしても問題ではない	6.5%	12.1%	30.9%	19.1%	23.4%	7.9%

図２－２－27　人生観・職業観（「そう思う」＋「ややそう思う」）①

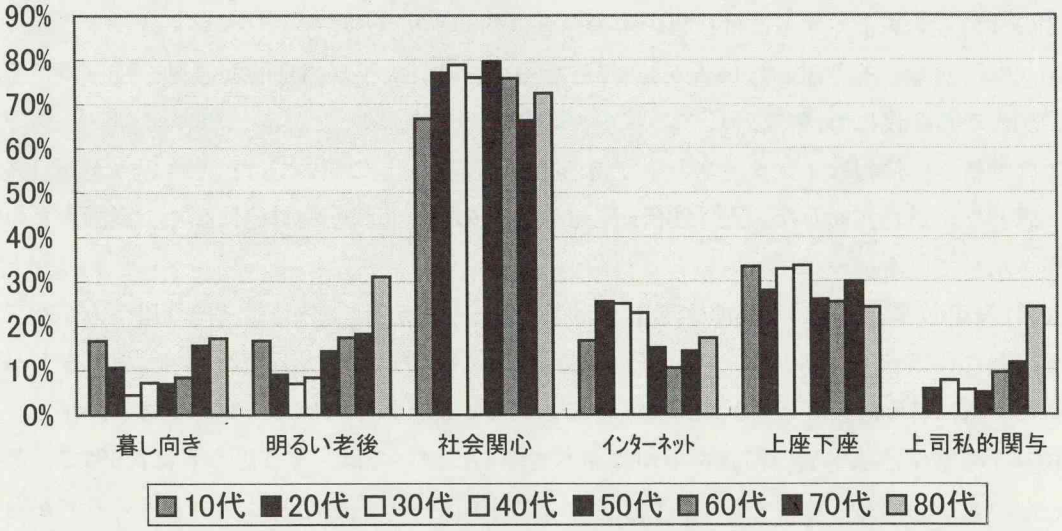
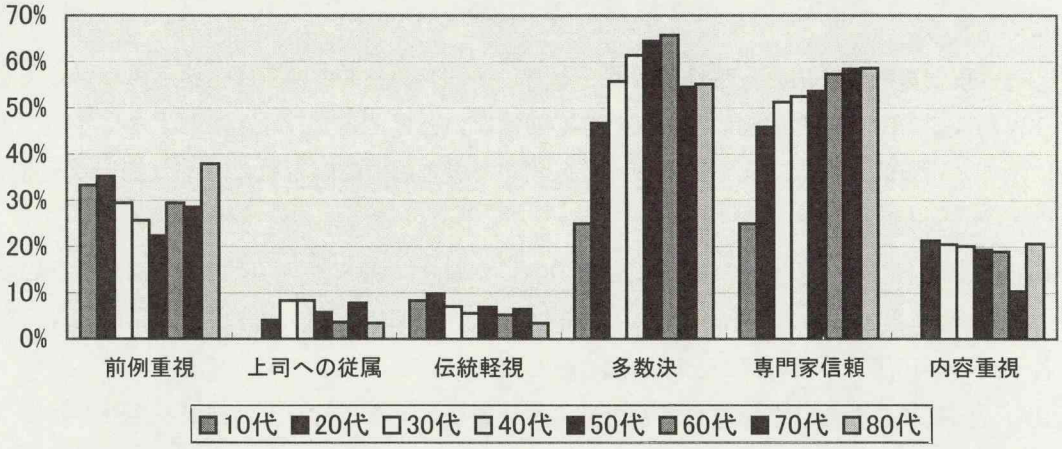


図２－２－28　人生観・職業観（「そう思う」＋「ややそう思う」）②



人生観・職業観に関する12の項目について聞いた。図２－２－27、図２－２－28にそれぞれの設問に対する年齢別の肯定的意見の割合を示したので、これらを合わせて見ながら各設問の回答状況を見てみたい。

まず、(1)の「世の中の暮らし向きはよい方向に向かっているか」については、調査時点の経済や政治の状況を反映して、そう思う人（「そう思う」と「ややそう思う」の合計、以下同じ）は8.4%で、そう思わない人（「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計、以下同じ）の62.2%を大きく下回った。年齢別に見ると家庭や子どもを持ち最も生活環境の厳しいと見られる30代が最も低い。

(2)の「老後に明るい見通しを持っているか」については、そう思う人が12.9%に対し、そう思わない人は49.1%で老後に対する展望は明るくない。特に20代から40代において低いが、60

代、70代で上がり、80代においては30%が明るい見通しを持っているのが救いである。

⑶の「暮らしをよくするには、世の中の動きに関心を払うべきか」については、そう思う人が76.2%に対し、そう思わない人が4.2%となっており、大半が肯定的な意見を持っている。特に20代から60代において高い。

⑷の「新しい情報はインターネットで得ることが多いか」については、そう思うが18.1%、そう思わないが43.5%となった。20代から40代までの若い世代が相対的に高く、高齢者との好対照を示している。

⑸の「職場の宴会において上座、下座をわきまえるべきか」については、そう思う人が28.7%、そう思わない人が37.5%と、上座、下座を宴会の場まで持ち込む必要はないと考える人が上回った。特に若年層よりも上司を経験することの多い50代以上のほうが寛容である。

⑹の「結婚など私生活の相談を上司にすべきか」については、そう思う人は7.6%で、そう思わない人は59.4%となっており、私生活にまで上司が入り込む必要はないと考える人が過半数を占める。肯定的意見は10代で0%のほか若年層から中高年層まで一様に低いが、80代のみ20%を超える。

⑺の「重要な問題を決める時は、前例を参考にすべきか」については、そう思うが27.6%、そう思わないが31.5%と前例にとらわれる必要はないと考える人のほうがわずかに多い。年齢別にみると肯定的意見は50代で最も低く、若年層と老年層で前例を参考にすべきという意見が多い。

⑻の「上司が間違っていると思っても上司のいう通りにすべきか」については、そう思う人が6.0%、そう思わない人が64.8%で否定的な意見が圧倒的に多い。肯定的意見は20代、30代で若干高いが10代で0%のほかどの年代も総じて低い。

⑼の「伝統やしきたりを無視しても自分の思う通りにすることがよい結果を生むか」については、そう思う人が6.6%、そう思わない人が49.8%となっており、肯定的意見は若年層に若干多いものの、それでも10%を切るレベルであり、それほど目立ったレベルではない。

⑽の「自分の意見と違っても多数決で決まったことを守るか」についてはそう思う人が58.7%、そう思わない人が12.2%となった。肯定的意見は40代から60代において高く、10代では自分の意見を通そうとする人が多い。

⑾の「環境問題など難しい問題は専門家の意見に従うのがよいか」については、そう思うが52.6%、そう思わないが11.3%となっている。肯定的意見は10代では少ないが、20代から高くなり以後年齢が増すにつれ、この傾向は強まる。

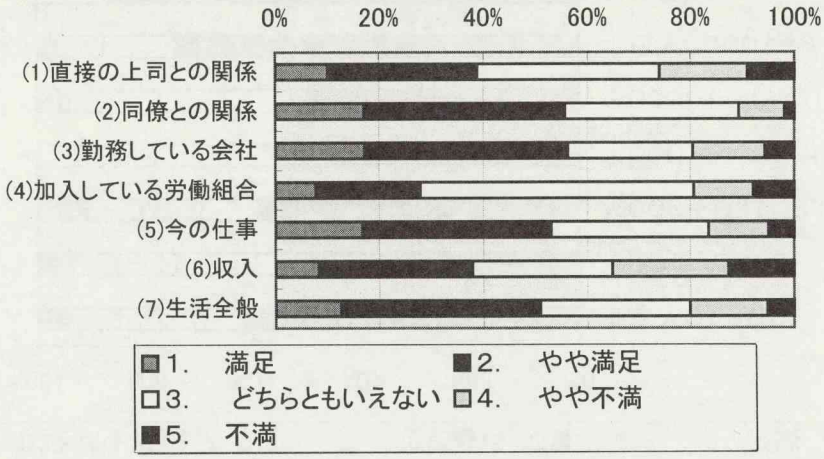
⑿の「重要な物事を決める時、内容が大切で、手続きが外れていても問題でないか」についてはそう思う人が18.6%でそう思わない人が42.5%となり、手続きが外れていることを問題視する人のほうが多い。問題と思わない人は10代で0%であるのを除き、どの年代もほとんど同じような傾向を示している。

⑿ 満足度

問25 以下の事柄について、どの程度満足していますか。あてはまるもの一つに○をつけてください。なお、お勤めでない方は(1)〜(4)に記入していただく必要はありません。

	1. 満 足	2. やや満足	3. どちらともいえない	4. やや不満	5. 不 満	NA
(1) 直接の上司との関係	5.6%	15.7%	19.3%	9.4%	4.9%	45.1%
(2) 同僚との関係	9.5%	21.2%	18.5%	4.8%	1.0%	44.9%
(3) 勤務している会社	9.5%	21.3%	13.2%	7.7%	3.0%	45.3%
(4) 加入している労働組合	3.5%	8.9%	23.5%	5.1%	3.5%	55.5%
(5) 今の仕事	12.9%	27.6%	23.4%	8.9%	3.7%	23.6%
(6) 収入	7.1%	25.0%	22.9%	19.1%	10.7%	15.1%
(7) 生活全般	11.2%	33.6%	25.5%	13.2%	4.4%	12.0%

図2－2－29 満 足 度



次に会社生活や生活全般に関する7項目の満足度を聞いた。ただし、仕事を持っていない人には(1)〜(4)の質問には回答を求めておらず、全体的に無回答の比率が高くなっているため、無回答を除外して各項目の満足度を図2－2－29に示した。

これによると、満足度の高かったのは(3)会社、(2)同僚、(5)仕事、(7)生活全般の4項目で「満足」と「やや満足」を合わせると満足に感じている人の比率はいずれも50%を超えた。これは、豊田市、刈谷市に本拠を置く主としてトヨタグループに属する企業群が、昨今の厳しい経済情勢、雇用情勢の中で、比較的手堅く好業績を上げ地域経済の維持発展に貢献していることを市民が評価し、会社に対する高い評価を筆頭に、生活全般の評価に至るまで好影響を与えている

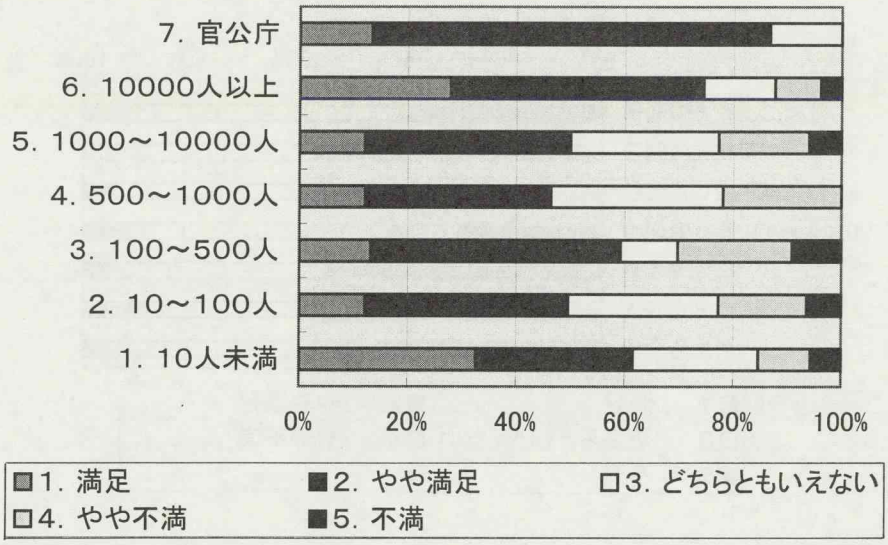
ものと考えられる。

逆に「不満」、「やや不満」と感じている人の比率が高い項目は(6)の収入であるが、それでも「満足」、「やや満足」の合計が僅かに上回っており、この種の調査では賃金や収入などに関する項目は他の質問項目より低めに出ることが知られていることからすると、収入に関する満足度よりも、(1)の上司に対し不満に感じている人が4分の1ほどいることをむしろ問題視すべきなのかも知れない。

また、(4)の労働組合については満足と思っている人が7項目のうち最も少なく、「どちらともいえない」と態度を決めかねている人が半数以上に上る。これは、最近の労働組合の活動を、不満と感じるわけでもなく、さりとて満足しているわけでもないという中間的な層や、一部は無関心層が多いことを表しており、こうした層をどちらに取り込んでいくか、今後の労働組合の活動がその成否を決めるというのは言い過ぎだろうか。

次に主要な項目を企業規模別、年齢別、職業別などの観点からもう少し詳しく見てみたい。

図2－2－30　（3）会社の満足度



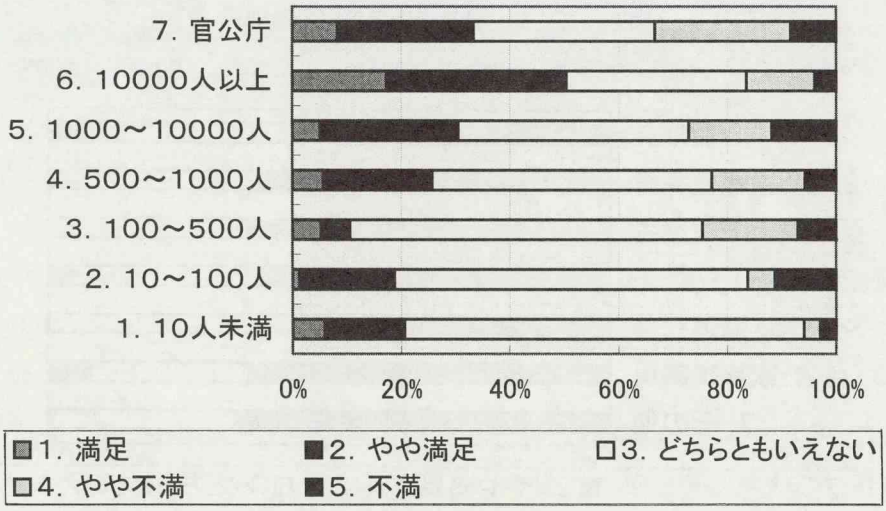
まず、勤務先の会社に満足しているかを勤務している会社の従業員規模別に見ると、図2－2－30のとおりである。やはり、10,000人以上の大企業に勤務している人の満足度は高く「満足」と評価する人は多いが、「満足」と「やや満足」の合計で見ると、官公庁に勤める公務員の方がそれをさらに上回り、不満に感じる人も皆無であるのは、公務員の安定的な地位によるところが大きいと思われる。

大企業に続いて満足度の高いのは10人未満の小企業、または自営・個人企業であって、これは、回答者の市民が自ら経営にも携わっていること、あるいは従業員の場合であっても、個人的なケアが行き届くことなどによるものと思われる。

上記以外の中間的な規模の企業でも「満足」と「やや満足」の合計は50%前後あり、問題と

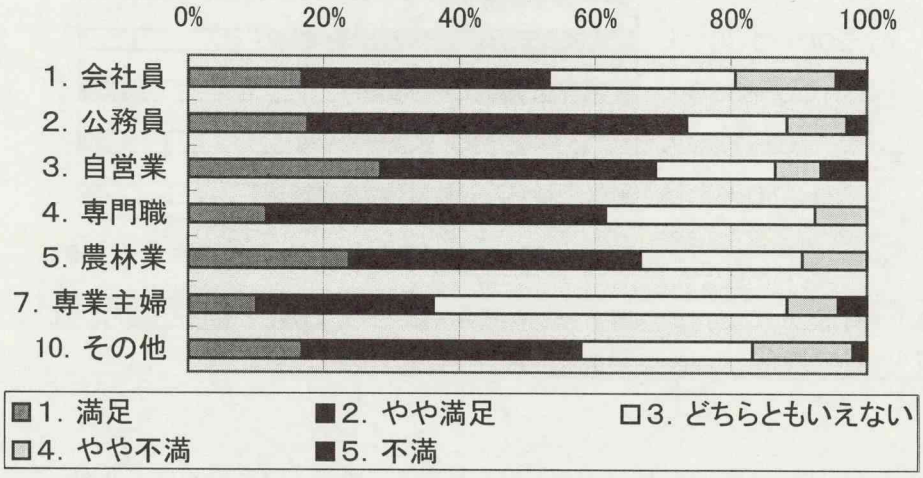
するレベルではないが、相対的に見て満足度が高いとはいえない。

図２－２－31　労働組合の満足度



同じように、所属している労働組合の満足度を図２－２－31に見ると、最も満足度の高いのは10,000人以上の大会社で、労働組合を満足だと思っている人が半数を超えている。しかし、その割合は企業規模が小さくなるにしたがって少なくなり、100～500人の中小企業では僅か１割に下がる。官公庁に勤める人の労働組合に対する評価は官公庁そのものの評価に比べ大きく下がり、不満に感じている人の割合は企業に勤める人のどの区分よりも大きい。

図２－２－32　仕事の満足度（職業別）



次に、仕事の満足度を職業別、役職別、企業規模別の３つの側面から見てみたい。

まず、図２－２－32に職業別満足度を示したが、これによると、最も対象者の多い会社員は専

業主婦を除き、満足度が他のどの職種よりも低い。満足度の高い職種は公務員、自営業、農林業などである。なお、「その他」の職種の大半はパートまたはアルバイトに類する職業である。

図２－２－33　仕事の満足度（役職別）

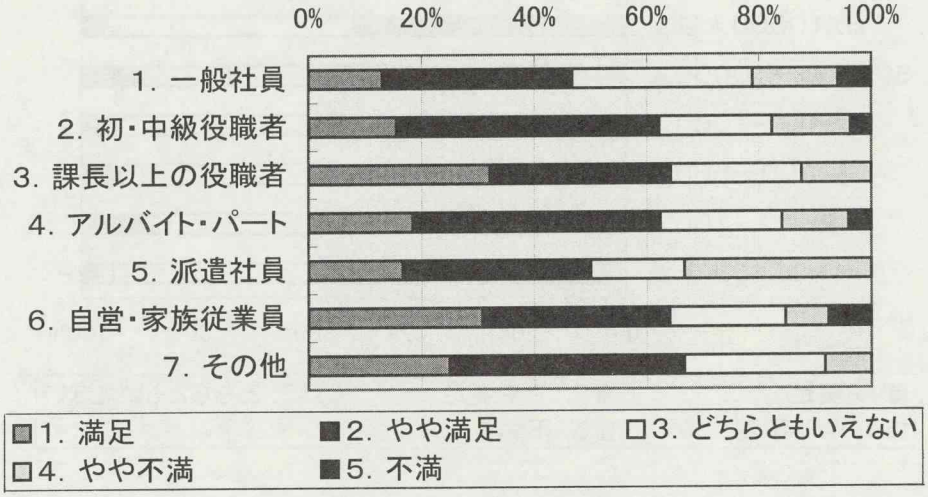


図２－２－34　仕事の満足度（企業規模別）

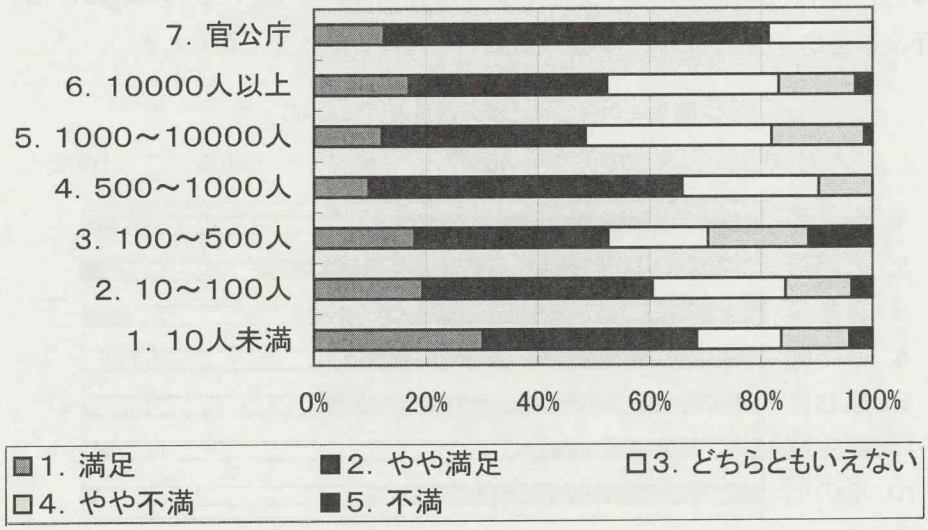


図２－２－33では、役職別に仕事の満足度を見た。これによると満足度が低かったのは一般社員と派遣社員であった。特に一般社員が上司、管理者よりも満足度が低いのは常識的に理解できるが、派遣社員では特に「やや不満」と感じる人が約３分の１おり、他の役職、地位に比べて明らかに多い。それに対して、アルバイト・パートの満足度は上司、管理者に匹敵する高

いレベルである。なお「その他」に含まれる役職・地位は経営者、嘱託、再雇用など、1～6の選択肢に入らなかった種々雑多のものが含まれ、傾向を特定することはできない。

次に企業規模別の仕事の満足度を図2－2－34に示した。これによると企業で相対的に満足度が高かったのは500～1,000人の中企業と、10人未満の自営・個人企業である。1,000人以上の中企業から大企業の仕事に対する満足度は相対的に高くなく、会社の満足度とは別の評価がなされていることがわかる。しかしながら、ここでも官公庁に勤める人の満足度は企業よりもかなり高いことがわかる。

図2－2－35　収入の満足度（年齢別）

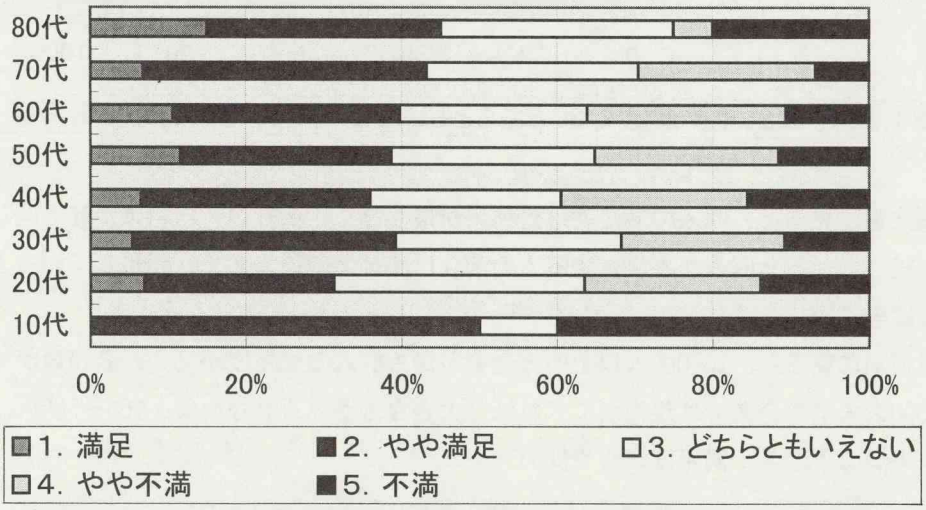
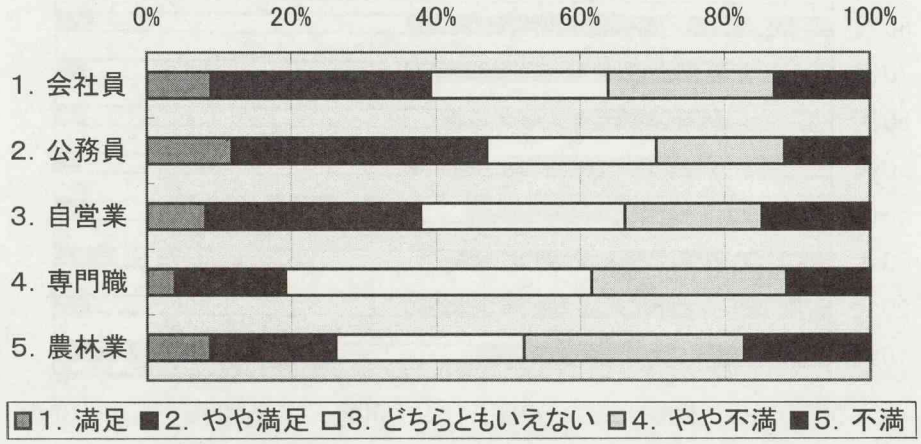


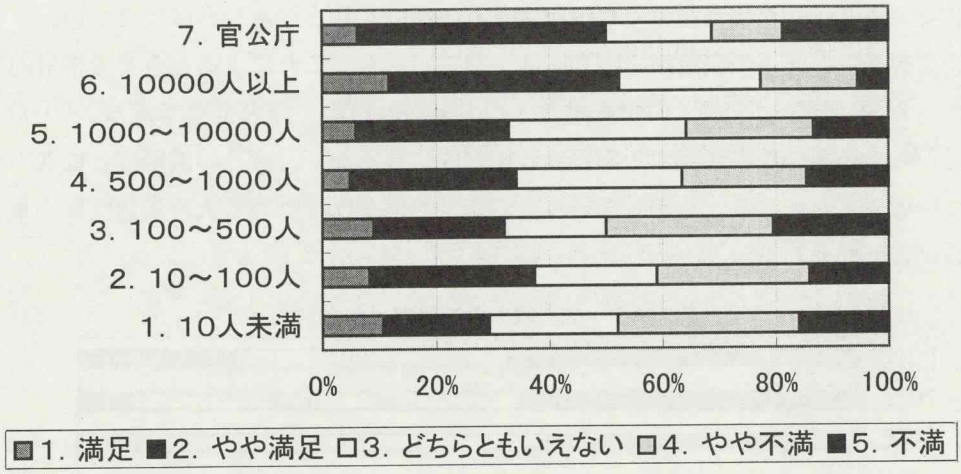
図2－2－36　収入の満足度（職業別）



次に、収入の満足度を年齢別、職業別、企業規模別の3つの側面から図2－2－35～37に示した。

まず、年齢別に見ると、学生など職業についていない人の多い10代を除いて、20代を底にして年齢が上昇するほど満足度が上がる傾向が見られ、一般的な定年年齢を迎えた60歳以上においてもその傾向は続いている。

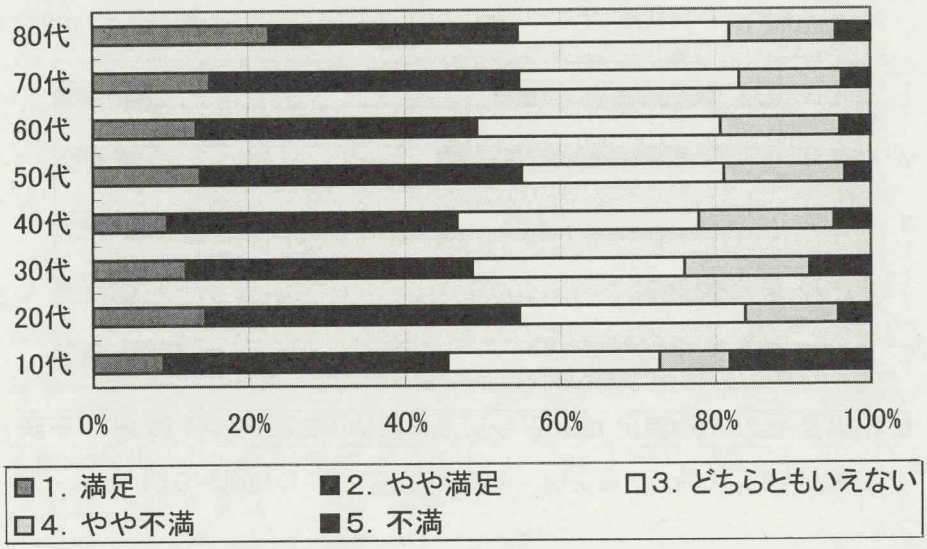
図２－２－37　収入の満足度（企業規模別）



次に職業別に見ると、収入の満足度は公務員が最も高く、会社員、自営業がほぼ同じレベルでそれに続いている。収入を不満とする人の割合は農林業で最も多く、満足している人が最も少ないのは専門職である。

企業規模別に見ると、10,000人以上の大企業が最も収入の満足度が高く、公務員がそれに次ぐ、10,000人未満の企業では規模別にそれほど大きな差が見られないが、100～500人の企業、及び10人未満の小企業で満足度がやや低い。

図２－２－38　生活全般の満足度



次に図２－２－38に生活全般の満足度を年齢別に示した。これによると、生活全般の満足度は年齢の上昇によって上昇傾向を示すが、その流れの中で20代、50代は周りの世代より生活全般に満足し、30代、40代で若干満足度が下がる傾向が見られる。

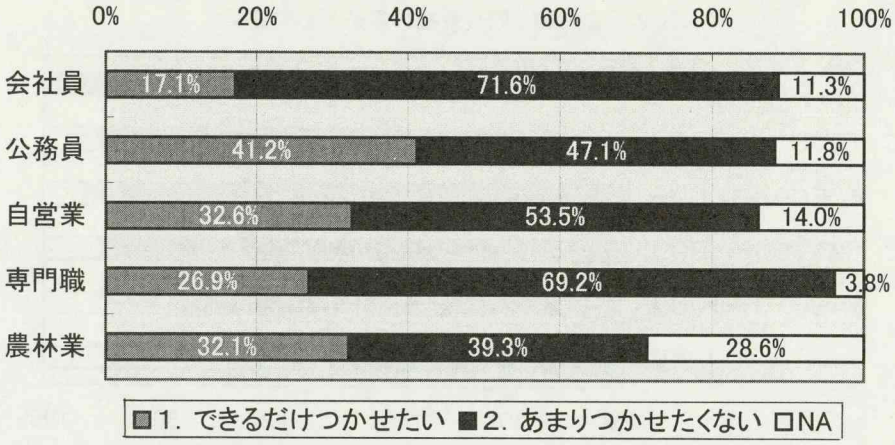
問26. 同じ仕事への子どもの勧奨

問26　（お仕事をされている方におうかがいします。）自分の子ども（いると仮定して）を今の仕事と同じような仕事につかせたいですか。どちらかに○をつけてください。

	計	1．豊田市	2．刈谷市
1．できるだけつかせたい	149(14.1%)	116(14.5%)	33(12.9%)
2．あまりつかせたくない	464(44.0%)	338(42.3%)	126(49.4%)
NA	442(41.9%)	346(43.3%)	96(37.6%)
計	1,055(100.0%)	800(100.0%)	255(100.0%)

子どもを自分の仕事と同じような仕事につかせたいかについては、子どもの意志に任せたいと考える人も多いと思われるが、今の仕事に満足しているかを測る一つの尺度にはなる。それによると、「できるだけつかせたい」は14.1%、「あまりつかせたくない」は44.0%となり、子どもを自分と同様の仕事につかせたいと考える人はそれほど多くない。

図2－2－39　同じ仕事への子どもの勧奨



これを職業別に見ると、「できるだけつかせたい」が最も多い職種は公務員で4割以上がそのように考えている。続いて自営業で3割以上が子どもに事業を継がせることを希望し、農林業も態度を決めかねている人が多いものの、3割以上が農業の後継ぎを希望している。専門職はそれらより「できるだけつかせたい」が少なく、逆に「あまりつかせたくない」人が7割近くに上る。会社員は「できるだけつかせたい」と考える人は2割以下で最も少なく、「あまりつかせたくない」と考える人が7割を占める。

問27. 同じ会社への子どもの勧奨

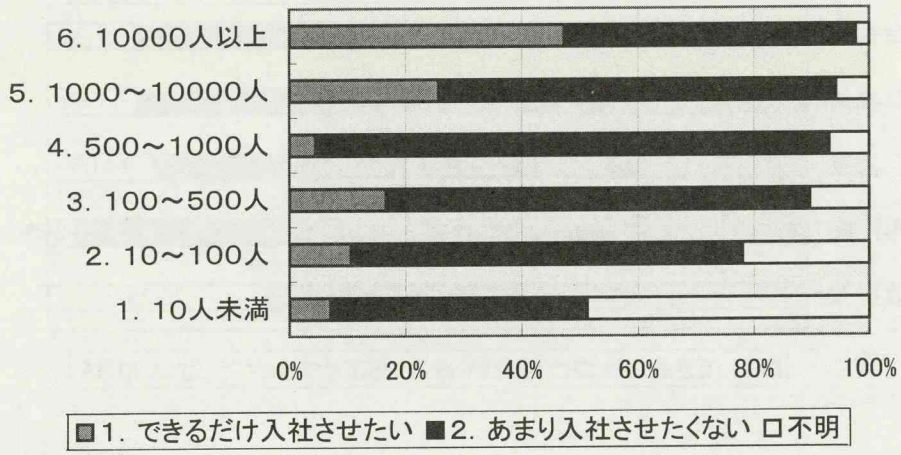
それでは、自分の子どもを同じ会社に入社するよう勧めるであろうか。それによると、「できるだけ入社させたい」が12.2%、「あまり入社させたくない」が36.8%となった。問26を仕

事を持っている人を対象者としたのに比べ、この質問では会社勤めをしている人を対象とした結果、公務員などが除外されたことにより無回答が増えているが、「同じ仕事をさせたくない」と考える人に比べ、「同じ会社に入れたくない」と考える人は7％ほど少なくなっており、会社への帰属意識は仕事への帰属意識よりも高いと考えられる。特に両市を比較した場合、「できるだけ入社させたい」と考える人は刈谷市の9.4％に比べ、豊田市では13.1％と高く、その傾向を感じ取ることができる。

問27　（会社にお勤めの方におうかがいします。）それでは自分の子ども（いると仮定して）を今の会社に入社させたいですか。どちらかに○をつけてください。

	計	1．豊田市	2．刈谷市
1．できるだけ入社させたい	129(12.2%)	105(13.1%)	24(9.4%)
2．あまり入社させたくない	388(36.8%)	283(35.4%)	105(41.2%)
NA	538(51.0%)	412(51.5%)	126(49.4%)
計	1,055(100.0%)	800(100.0%)	255(100.0%)

図2－2－40　同じ会社への子どもの勧奨



これを企業規模別に見たグラフを図2－2－40に示したが、10,000人以上の大会社に勤める人のおよそ2人に1人は自分の子どもをその会社に入社させたいと考えており、1,000人以上の会社でも4人に1人はそのように考えている。しかしそれ以外の会社では子どもを同じ会社に入社させたいと考える人は少なく、中でも500～1,000人の中規模の会社でその傾向が最も強いことが特徴的である。

⑬　家計収支

問28.　月間諸経費

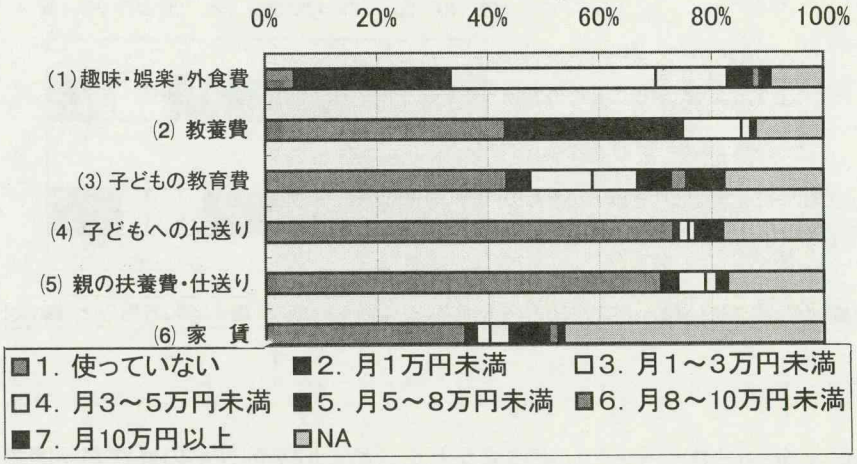
1か月の経費を費目別に聞き、これを図2－2－41に示したが、これによると、まず(1)趣味

・娯楽・外食費は世帯によってばらつきが大きく、最も大きな比率を占めるのは月間１～３万円の世帯となっている。

問28　あなたのご家庭では、一ヶ月にだいたい次の事柄にどのくらいのお金を使っていますか。以下の選択肢から選んでお答えください。

	1. 使っていない	2. 1万円未満	3. 1～3万円	4. 3～5万円	5. 5～8万円	6. 8～10万円	7. 10万円以上	NA
(1) 趣味、旅行、観劇、おいしいものを食べに行くなど	5.3%	28.0%	36.8%	12.8%	4.4%	1.5%	1.8%	9.5%
(2) あなたや奥さん(だんなさん)のならいごと、お稽古ごと	43.2%	31.6%	10.5%	1.7%	0.4%	0.2%	0.3%	12.1%
(3) 子どもの教育費(学校や塾の授業料)、学資保険など	43.4%	4.2%	11.2%	8.0%	5.8%	2.9%	6.7%	17.8%
(4) 子どもへの仕送り	73.1%	0.9%	1.8%	1.2%	1.0%	0.6%	3.3%	18.1%
(5) 親の扶養費、あるいは親への仕送りなど	71.0%	2.9%	4.9%	2.0%	0.9%	0.3%	0.8%	17.2%
(6) 家賃（賃貸の方のみ）	35.8%	1.9%	2.5%	3.6%	7.0%	1.8%	0.9%	46.5%

図２－２－41　月間諸経費



(2)の教養費は特に使っていないと答えた人が有効回答の半数あり、使っている世帯でも大半が１万円未満で余り多くない。(3)子どもの教育費、および(4)子どもへの仕送りは教育を受けさせるべき世代の子どもがいる世帯とそうでない世帯で当然のことながら大差が見られる。教育費のばらつきは大きく、最も多いのは１～３万円の世帯であるが、10万円以上の世帯も見られ

る。子どもに仕送りをしている世帯は全体の１割程度と少ないがその中で３分の１以上は10万円以上の支出となっている。

⑸の親を経済的に援助したり、実家に仕送りをしている人は１割強で、最も多いのは１～３万円の世帯で額もそれほど多くない。

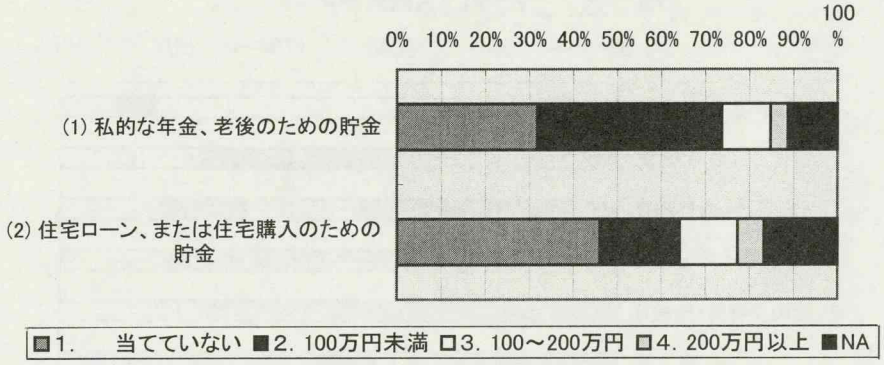
⑹のマンション・アパート住まいなどで家賃の支出のある人は２割程度で、最も多いのは５～８万円の世帯である。

問29. 年間貯蓄額

問29　あなたのご家庭では、昨年一年間に次の事柄にどのくらいのお金を当てましたか。以下の選択肢から選んでお答えください。

	1. 当てていない	2. 100万円未満	3. 100～200万円	4. 200万円以上	NA
1　私的な年金、老後のための貯金	31.8%	41.9%	11.1%	4.0%	11.3%
2　住宅ローン、または住宅購入のための貯金	46.1%	18.1%	13.2%	6.0%	16.7%

図２－２－42　年間貯蓄（ローン、積立額）



次に、私的年金や住宅ローン・住宅積立などを含め、貯蓄的性格の経費が年間でいくらぐらいあるかを聞いた。

それによると、⑴の私的な年金や老後のための貯金は特にしていない人が３割、100万円未満の人が最も多く４割、100～200万円の人が１割、200万円以上の人も僅かながらいる。

⑵の住宅ローン、住宅購入のための貯金は、特にしていない人が半数近くを占め、住宅ローンや住宅関連の貯蓄をしている人の中では100万円未満が約半数で、100万円以上や200万円以

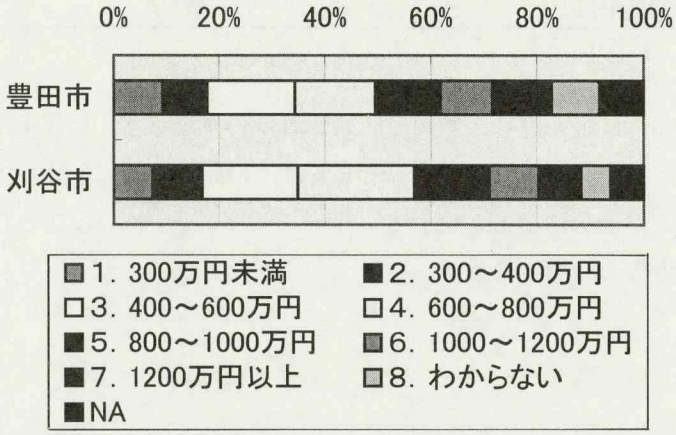
上の人もかなりの割合に上る。

問30. 年間世帯収入

問30　あなたのご家族全員の昨年１年間の収入の合計はおいくらぐらいですか。ボーナスや利子、配当なども含めた税込みの額をお教えください。あてはまるもの一つに○をつけてください。

	計	1．豊田市	2．刈谷市
1．年300万円未満	94（ 8.9%）	75（ 9.4%）	19（ 7.5%）
2．年300～400万円未満	91（ 8.6%）	67（ 8.4%）	24（ 9.4%）
3．年400～600万円未満	179（ 17.0%）	133（ 16.6%）	46（ 18.0%）
4．年600～800万円未満	177（ 16.8%）	121（ 15.1%）	56（ 22.0%）
5．年800～1,000万円未満	134（ 12.7%）	98（ 12.3%）	36（ 14.1%）
6．年1,000～1,200万円未満	103（ 9.8%）	79（ 9.9%）	24（ 9.4%）
7．1,200万円以上	109（ 10.3%）	89（ 11.1%）	20（ 7.8%）
8．わからない	86（ 8.2%）	72（ 9.0%）	14（ 5.5%）
NA	82（ 7.8%）	66（ 8.3%）	16（ 6.3%）
計	1,055（100.0%）	800（100.0%）	255（100.0%）

図２－２－43　年間世帯収入



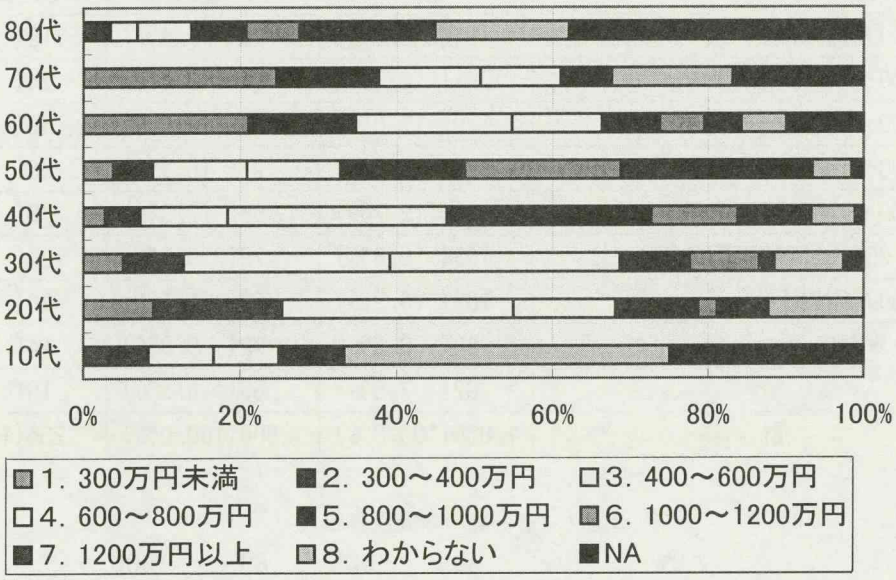
最後に年間世帯収入を聞いた。それによると、家計収入300万円未満の世帯、および300～400万円の世帯はおのおの10%未満で、400～600万円、および600～800万円の世帯がともに約17%で最も多いグループとなっている。800～1,000万円が約13%、1,000～1,200万円、1,200万円以上の世帯もおのおの約10%に達する。

これを両市で比較したグラフを図２－２－43に示したが、豊田市では1,200万円以上の高額所得世帯が多く、刈谷市では600～800万円の中間所得世帯が多いことがわかる。

また、図２－２－44に年齢別グラフを示したが、20代を底にして50代まで年齢が上がるにつれ高額所得世帯が増え、年功的な賃金体系を反映している。各年代で最も多い所得階層は、20代で400～600万円、30代では400～600万円と600～800万円が肩を並べ、40代では600～800万円と800～1,000万円が肩を並べ、50代になると1,200万円以上が最も多くなる。

多くが定年退職する60代になると300万円未満が最も多くなり、70代でもその傾向は続く。

図２－２－44　年間家計収入



この中で10代と80代は全く違った傾向が観察される。すなわち、10代では親と、80代では子と同居するケースが多いためか、世帯収入としてはその周りの世代に比べ多くなっている。また、世帯収入を本人が十分に把握していないケースが多く、「わからない」や、無回答が多いのもこれら２つの世代の特徴である。